

一 二 上

「たんぽぽさんって、
まぶしいのね。
ひまわりさんの子で、
お日さまのまごだから。
と、ちょうどうがきいた。
たんぽぽは、
うふんとわらつた。



この本でがくしゅうするみなさんへ
この本では、つぎのしるしがつかわれています。

○新しくがくしゅうする
●読み方が新しいかん字。
▲新たにかたかな。

ことばの話したり聞いたりします。
書きましょう。

ことばのことばのしるしをします。
大切なことです。おぼえたり、たしかめたりしましょう。

ことばのがくしゅうをします。
国語のがくしゅうでよくつかわれることばです。

がくしゅうをするときには、気をつけることなどを書いています。
聞いて、がくしゅうするところです。

がくしゅうをするときに見るとよいページを書いています。

このしるしがあるところには、がくしゅうのたすけどあります。
読みどるときには、からなず、先生やおうちの方といっしょに行いましょう。



この本でがくしゅうするみなさんへ
この本では、つぎのしるしがつかわれています。

○新しくがくしゅうする
●読み方が新しいかん字。
▲新たにかたかな。

話したり聞いたりします。
書きましょう。

ことばのことばのしるしをします。
大切なことです。おぼえたり、たしかめたりしましょう。

ことばのがくしゅうをします。
国語のがくしゅうでよくつかわれることばです。

がくしゅうをするときには、気をつけることなどを書いています。
聞いて、がくしゅうするところです。

がくしゅうをするときに見るとよいページを書いています。

もくじ

二年生のこどものまなびを見わたそう
じゅんばんにならぼう
つづけてみよう

①おはなしを読み、やくにわかれで音読しよう
ふきのとう
ほんともだち図書館たんけん

きょうのできごと
ともだちをさがそう
かなつ名人になろう

いなばの白うさぎ
じゅんじょに氣をつけて読もう
たんぽぽのちえ

ともだちをさがそう
いなばの白うさぎ
たんぽぽのちえ

かんさつ名人になろう
ことば同じぶぶんをもつかん字
ことばうれしいことば

かんさつ名人になろう
ことば同じぶぶんをもつかん字
ことばうれしいことば

③お話を読んで、しょうかいしよう
スイミー
レオ・レオニ　レオ・レオニ　さくにかわしゅんだらうやく
じょうほうメモをとるとき
雨のうた　つるみまさお　読む

こんなもの、見つけたよ
コラム　丸、点、かぎ

あつたらいいな、こんなもの
本は友だち

お気に入りの本をしようかいしよう
ミリーのすてきなぼうし　きたむらさとし

ことばでみちあんない
読んで覚えたことを話そう　読む

どうぶつ園のじゅうい
うえだみや

ことば　ことばあそびをしよう
ことば　なかまのことばとかんじ

きせつのことば　春30夏90
かん字のひろば　①62②114③132
かたかなのひろば

77

130

127

115

112

110

97

92

86

85

80

78

63

60

58

52

51

41

38

34

32

28

13



「たいせつ」のまとめ
知りたいことの
見つけ方、しらべ方

ふろく　がくしゅうを広げよう

これまでにならったかん字

この本でならうかんじ

ことばのたからばこ

いなばの白うさぎ
これまでにならったかん字

これまでにならったかん字

これまでにならったかん字

153 150 148 144 141 140 138

134



がくしゅうの すすめかた

こくごの まなびを み 見わたそう

はじめに

「なにをするのかな。」
「やってみたい。」
「どうしてかな。」



よむ

かく

はなす・きく



ふりかえる

「わかった。」「できた。」
「まだよくわからない。」
「——と いう ことばを
はじめて しつった。」



これから、こくごの がくしゅうが
はじまります。
がくしゅうの すすめかたと、二年生で
まなぶ ことを たしかめましょう。

がくしゅうや せいかつに いかす

「こんどは、こう して
みよう。」
「この ことばを つかって
みたい。」



二年生で



一年生で がくしゅうする「こと

二年生で まなぶ ことを たしかめたり、
がくしゅうした ことを フリかえつたり
する ときに つかいましょう。

に
ねんせい



かく

はなす・きく

じゅんばんに ならばう

ともだちを さがそう

だいじな ことを おとさずに、話したり

聞いたり する

あつたらいな、こんなもの

しつもんをして、あいての考え方をひき出す

ことばでみちあんない

そうだんにつてください
考え方を出し合い、話し合う

樂しかったよ、二年生

つたえたいことをきめて、
はっぴょうする

- みんなに、きこえる こえで、
はつきりと はなす。
- つぎの ことを かんがえながら、
ともだちの はなしを きく。
- おもしろい ところ。
- おどろいた こと。
- もつと しりたい こと。
- ともだちの はなしを たしかめたり、
わからない ことを きいたり する。

5 10 5

下

メモ

じつもん

112 34 86 34 10

きょうの できごと

日記に 書く こと

かんさつ名人に ならう

かんさつしたこと を 書く

こんな もの、見つけたよ

組み立てを 考えて 書く

80 52 32

一年生の まなびを たしかめよう

字を、正しく かく。

文の おわりに、まる(。)を

つける。

よみやすいように、てん(ー)を
つける。

「は」「を」「へ」を、正しく つかう。

せつめいの じゅんに 気を つけて、
わかりやすく かく。

文しようを かいたら、まちがいが
ないか よみかえす。
ともだちの 文しようを よんで、

おもつた ことや わかつた ことを
つたえる。

できごと

10 5 10

おもちゃの作り方をせつめいしよう
お話をじゅんじょが分かるように書く
お話をさくしゃになろう
見たこと、かんじたこと
詩に書くことを見つける
すてきなところをつたえよう
読む人に分かりやすい文しようを書く

下



せつめいする 文しょう

たんぽぽの ちえ

せつめいする 文しようを 読む

どうぶつ園のじゅうい

読んで、考へをもつ



ひつじや

41

- だいじな ことばを たしかめながら よむ。

一年生の まなびを たしかめよう

せつめいの じゅんに 気を つけて よむ。

- くらべて よむと、なにが ちがうのかが よくわかる。



5

一年生の まなびを たしかめよう

おはなし・し

ふきのとう

おはなしを たしかめる

とうじょうじんび

13

スイミー

あらすじを まとめる

あらすじ

63

雨のうた

うかべる

110

- おはなしには、いくつかの まとまりが ある。
- おはなしを よむ ときは、 だれが なにを いつたり したり したかに、気を つける。
- おはなしに 出て くる 人が、 したことや いったことを おもいうかべながら、よむ。
- かんじた ことを ともだちと はなすと、おはなしを もつと たのしめる。

- おはなしには、いくつかの まとまりが ある。
- おはなしを よむ ときは、 だれが なにを いつたり したり したかに、気を つける。
- おはなしに 出て くる 人が、 したことや いったことを おもいうかべながら、よむ。
- かんじた ことを ともだちと はなすと、おはなしを もつと たのしめる。

馬のおもちゃの作り方
せつめいのしかたに 気をつけて 読む

おにごっこ

だいじなことばや文を見つける

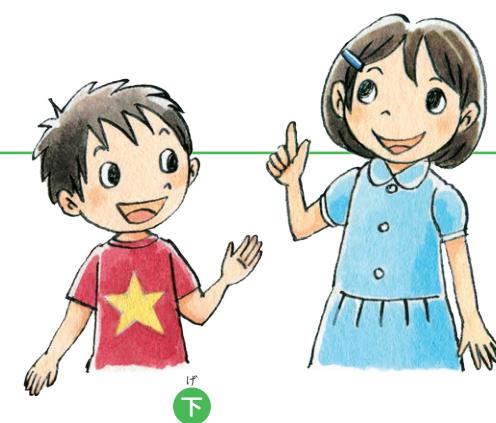
下

- だいじな ことばを たしかめながら よむ。

41

- だいじな ことばを たしかめながら よむ。

41



お手紙
てがみ

読んで、かんじたことをつたえ合う

はんたいことば
しらうま

あ

わたしはおねえさん
じんぶつと自分を
くらべて読む

よ

はんたいことば
しらうま

よ



10

5



8

7

ことば

ことばの つかいかた	じょうほう	どくしょ
同じ ぶぶんを もつ かん字 <small>じ</small> うれしい ことば 丸、点、かぎ なかまのことばとかん字 <small>じ</small> かん字の ひろば① かたかなの ひろば かたかなで 書くことば にたいみのことば、 はんたいのいみのことば ようすをあらわすことば カンジーはかせの大はつめい かん字の広場 <small>ひろば</small> ④・⑤	じゅんじょ メモを とる とき 本でのしらべ方 <small>かた</small> 聞いて たのしもう ことばあそびをしよう きせつの ことば ことばを楽しもう きせつのことば 秋・冬	図書館 <small>としょかん</small> たんけん お気に入りの本を しようかいしよう 本をしようかいする ミリーのすてきなぼうし 92 97 78 51
下	下	下
主語と述語に 気をつけよう かん字の読み方 かたかなで書くことば にたいみのことば、 はんたいのいみのことば ようすをあらわすことば カンジーはかせの大はつめい かん字の広場 <small>ひろば</small> ④・⑤	— いなばの 白うさぎ ことばあそびをしよう きせつの ことば — せかい一の話 90 30 127 38	58 60 85 130 62 77 132 114
下	うけつがれる ことば	どくしょ



じゅんばんに ならぼう

みんなで こえをかけあつて、
じゅんばんに ならびましょう。



**1 先生の はなしを
よく やいとう。**

先生のまえに、「たんじょう日」が早い人からじゅんばんにならびましょう。

**2 こえをかけあつて、
ならぼう。**

わたしは、五月生まれだから、このあたりかな。

**3 正しい じゅんばんに
ならべたか、たしかめよう。**

わたしも、二月生まれだよ。
まついたさんは、なん日生まれなの。

もつと たのしもう

- いろいろなじゅんばんにならぶ。
- あさ、おきたじかんがならぶ。
- 早い(おそい)じゅんまえのあいうえおじゅんこえを出さないで、手のうごきなどをつかってならぶ。

どんなふうにこえをかけあいましたか。

つづけて みよう

きょうは どんな

ことが ありましたか。

「ここに のこつた

ことを、ひとことで

かいて みましょう。

●できごと

●見つけた もの

みんなに しらせても

いいですね。

5

四月十五日（水）
けんばんハーモニカの
れんしゅうをした。
四月十六日（木）
花だんで、かたつむりを
見つけた。
四月十七日（金）
きゅうしょくとうばんで、
カレーをついだ。



おはなしを 読み、
やくに わかれて
音読しよう

これまでの がくしゅう
一年生の まなびを たしかめよう
(おはなし・し)

8ページ

ふきのとう

1

「ふきのとう」は、はるを まつ
おはなしです。だれが 出て きて、
どんな ことが おこるのでしようか。



ふきのとう

くどうなおこさく
ひらおかひとみえ

よが あけました。

あさの ひかりを あびて、
竹やぶの 竹の はっぱが、

「さむかつたね。」

「うん、さむかつたね。」

と ささやいて います。

雪が まだ すこし のこつて、

あたりは しんと して います。

◦ 雪 ゆき ◦ 音おんじく ◦ 読よ
◦ 読む む

どこかで、小さなこえがしました。

「よいしょ、よいしょ。おもたいな。」

竹やぶのそばのふきのとうです。

雪の下にあたまを出して、

雪をどけようと、ふんばつているところです。

「よいしょ、よいしょ。そとが見たいな。」

「ごめんね。」

と、雪が言いました。

「わたしも、早くとけて

10

水になり、とおくへ行つて
あそびたいけど。」

と、上を見上げます。

「竹やぶのかげになつて、

お日さまがあたらない。」

とざんねんそうです。



○行く

○言う

「すまない。」

と、竹やぶが 言いました。

「わたしたちも、ゆれて おどりたい。」

ゆれて おどれば、雪に 日が あたる。」

と、上を 見上げます。

「でも、はるかぜが まだ こない。」

はるかぜが こないと、おどれない。」

と ザんねんそうです。

空の 上で、お日さまが わらいました。

「おや、はるかぜが ねぼうして いるな。」

竹やぶも 雪も ふきのとうも、みんな

こまつて いるな。」

そこで、南を むいて 言いました。

「おうい、はるかぜ。おきなさい。」

○南
みなみ

お日さまに おこされて、
はるかぜは、大きな あくび。

それから、せのびして 言いました。

「や、お日さま。や、みんな。おまちどお。」

はるかぜは、むね いっぱいに いきを すい、
ふうつと いきを はきました。

はるかぜに ふかれて、

竹やぶが、ゆれる ゆれる、おどる。

雪ゆきが、とける とける、水みずに なる。

10

ふきのとうが、ふんばる、せが のびる。

ふかれて、

ゆれて、

とけて、

ふんばつて、

——もっこり。

5



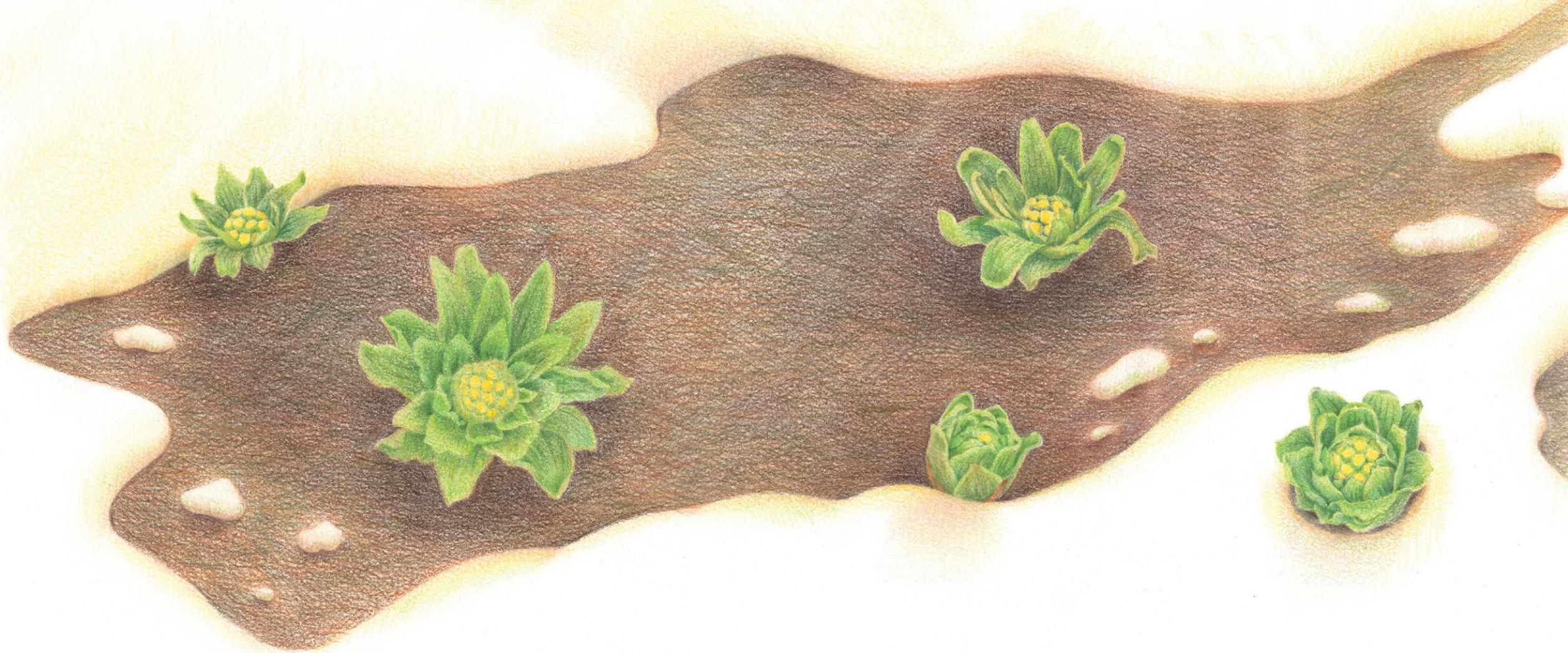
ふきのとうが、かおを
だ
出しました。

「こにちは。」

もう、

すっかり はるです。

くどうなおこさんは、「こぶたはなこさん
のおべんとう」「かぜのこもりうた」なども
かいて います。





見とおしをもとう

- おはなしの ようすが よく わかるように、音読しよう。
- だれが どう したのかを たしかめましょう。

おはなしを 読み、やぐに わかれて 音読しよう

おはなしの ようじょうじんぶつ (じんぶつ) おはなしの中に出でくる人のこと。

とうじょうじんぶつ (じんぶつ) おはなしの中に出でくる人のこと。
155ページ

ふかめよう

- 「ふきのとう」は、どんな おはなしでし
たか。
- どんな どうじょうじんぶつが 出て
きますか。
- どんな ことを して いますか。
- どんな ことを はなして いますか。
- つぎのことばを どのように 読みます
か。こえに 出して、読んで みましょう。

「よいしょ、よいしょ。おもたいな」

あとに、「ふん
こえ」って、書いて
あるよ。

あとに、「ふん
こえ」って、書いて
あるよ。



まとめよう

- グループの 中で、やくに わかれて、
音読を れんしゅうしましょう。
- じぶんの やくの 読みかたを かんがえ
て、音読します。
- よかつたところや、もっとくふうすると
よい ところを つたえあいます。

音読で 気を つける こと

- しせい ● □の あけかた
- こえの 大きさ
- 読む はやさ

「おうい、はるかぜ」が、
ゆつくりと 大きな こえで、
おひさまみたいだったよ。



ひろげよう

- 音読を ききあいましょう。ほかの
グループの 音読を きいて、いいなど
おもつた ところを つたえましょう。

□しる どんな ことに 気を つけて、音読しましたか。

□読む じんぶつが したことや、言つた ことを たしかめられましたか。

□つなぐ これから 音読する とき、どんな ことに 気を つけたいですか。



ふりかえろう

□しる
□読む
□つなぐ

これから 音読する とき、どんな ことに 気を つけたいですか。

○絵え ○書かく



おはなしを たしかめる

- どうじょうじんぶつを たしかめる。
- どうじょうじんぶつが したことや、言つた ことがわかる ことばを見つける。
- 絵に かかれて いる ことを手がかりにする。

5

		四月十日	読んだ日
		はるねこ	だいめい
		かんのゆうこ	書いた人
		◎	

おもしろかつた
しるし



読んだ本は、ノートやカードに書いて おきましょう。

絵	読	読	読	読	読	読	読	読	読	読	読
繪	雪	雪	雪	雪	雪	雪	雪	雪	雪	雪	雪
絵	言	言	言	言	言	言	言	言	言	言	言
絵	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行
絵	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
絵	書	書	書	書	書	書	書	書	書	書	書
絵	書	書	書	書	書	書	書	書	書	書	書
絵	書く	行く	いく								



あ、はるだね



はるをさがしに



はるがきた



はるにあえたよ

この本、読もう

はるに なった ことを

かんじる 本です。それぞれの
本の どうじょうじんぶつは、
どんな ことに はるを かんじる
のでしょう。

はるに なった ことを
かんじる 本です。それぞれの
本の どうじょうじんぶつは、
どんな ことに はるを かんじる
のでしょう。



本
は
と
も
だ
ち

図書館たんけん

図書館の本は、みんながさがしやすいようになかも分けされて、ならんでいます。どのようにならんでいるか、しらべてみましょう。



図
分 分 分 分
図書館
方 方 方 方
おり方

● 本の分け方
絵本やものがたり、しそんについての本など、
しゆるいによつてたなが分かれています。
● 本のならべ方
ふつう、本のだいめいや、さくしやの名まえの
あいうえおじゅんにならべられています。

つぎの本をさがしてみましょう。
・なすのそだて方が分かる本
・虫の名まえが分かる本
・「うらしまたろう」

きせつのかことば1

春がいっぱい

どんなものを見たときに、春だなあと
かんじますか。春をかんじるものを、カードに書きましょう。

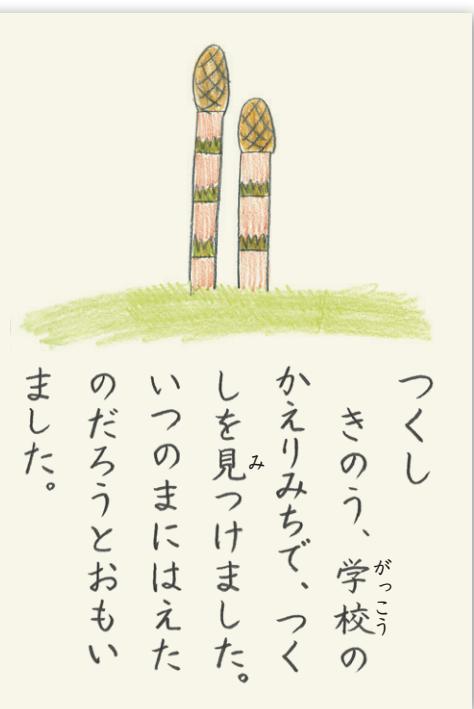


うぐいす

みんなの
ひょうしを
書いたカードをまとめて、
つけてもいいですね。



○春



10

5



ひばり

れんげそう

なの花

たんぽぽ

てんとう虫

みつばち

すみれ

もんしろうちよう

はなが　さいた

まど・みちお

はなが　さいた

まど・みちお

はなが　さいた

まど・みちお

はなが　ひと　いない

まど・みちお

はなが　さいた

まど・みちお

はなが　さいた

まど・みちお

はなが　さいた

まど・みちお

おもい出して書こう

きょうのできだと

あなたは、きょう、どんなことをしましたか。

どんなことを見たり、きいたりしましたか。
思い出して、日記に書きましょう。



おもい出す
日記
土曜日

四月十八日（土曜日）はれ
夕方、おかあさんがコロッケをつくっていました。ぼくが見ていたら、おかあさんが、「いっしょにつくろうか。」と言つたので、ぼくもおてつだいをすることにしました。

5
たいせつ
日記に書くこと
5
した
こと、見つけたもの
見たこと、見つけたもの
言つたこと、きいたこと
思つたこと
いつもすることを、つづけて
書いてもいいですね。

にしました。

ぼくは、じやがいもと、ひき肉と、玉ねぎをまぜたものをまるめました。きれいなかたちにするのがむずかしかつたけれど、だんだんじょうずにできるようになりました。

夕ごはんのまえに、できたてをあじみしました。ころもがかりつとしていて、おいしかつたです。

書いたら、いえの人にともだちに読んでもらいましょう。そして、じょうずに書いているな、ようすがよく分かるなど思つたところをおしゃてもらいましょう。

か
書いたら、いえの人にともだちに読んでもらいましょう。そして、じょうずに書いているな、ようすがよく分かるなど思つたところをおしゃてもらいましょう。

10

思記記記記記記記記
曜曜曜曜曜曜曜曜
肉肉肉肉肉肉
ひき肉



あとから日記を読んで
も、どんなことがあった
のかがよく分かるようにな
書こう。

ひき肉

ともだちを さがそう

○聞く ○話す

たしかめよう

「一年生のまなびをたしかめよう」

5ページ

にしのさんたちは、いつしょに
ゆうえんちにきていたともだちを
さがしています。

あなたも、いつしょに
さがしましょう。

1 絵を見て話そう。

ゆうえんちには、どんな人が
いますか。その人のことが
分かるように、ともだちに
話しましょう。



2 話を聞くときにはなことをかんがえる。

ことを見つけて、さがす。

3 おしらせを聞いて、さがす。

ことを見つけて、さがす。



2 話を聞くときには、まいごの おしらせを聞くときには、どんなことに気をつけるといいでしよう。

まいごの おしらせを聞くときには、どんなことに気をつけるといいでしよう。

3 おしらせを聞いて、さがそう。④

まいごの おしらせをよく聞いて、35ページの中から、ともだちのゆかさんをさがしましょう。

だいじなことは、メモをしておきましょう。

まいごの おしらせをします。

やまだゆかさんと いう 六さいの 女の子が、まいごになつています。

ゆかさんは、青と白のたてのしまもようのシャツをきて、白いぼうしをかぶり、リュックサックをせおつています。

見かけた人は、かかりまでおしらせください。



ほかの人とまちがえなくているふくや、もつているものが分かると、さがせそう。



聞いたことやかんがえたことなどを書きとめること。

155ページ

- ・青と白の、たてのしまもようのシャツ

絵の中のほかの子どもをえらんで、

まいごの おしらせをしてみましょう。

ことばの 音のたかさに気をつけて、

話したり 聞いたり しましよう。

だいじなことをおとさずに、
話をしたり 聞いたり する

- ・だいじなことはなにかをかんがえて話す。
- ・聞くときは、だいじなことをおとさない
ように、メモをとる。



たいせつ

□しる 音のたかさに気をつけないといいのは、どうしてですか。
□話す・聞くどんなことを聞くと、絵の中からひとりの人をさがせますか。

□つなぐ ともだちや先生の話を聞くときには、どんなことに気をつけたいですか。

・先生



話 話 話 話 話 話 話

聞 聞 聞 聴 聞 聞 聞

音のたかさ

「雨(あめ)」とことばを、こえに出して言ってみましょう。「あ」か「め」のどちらかをたかく言いましたか。どちらもおなじたかさでしたか。

たべる「あめ」は、どうでしょう。「雨」とおなじですか。

ひらがなで書くとおなじことばでも、音のたかさでくべつできることがあります。



聞いて たのしもう

先生に 読んで もらって、
お話を たのしみましょう。

いなばの 白うさぎ

なかがわりえこ 文
いとうひでお 絵



▼だれが 出て きましたか。
どんな ことが おこりましたか。
みんなで 話しましよう。

144
ページ

この本、読もう



さんまいのおふだ

カムイチカブ



鉢の木



うずらのかあさん



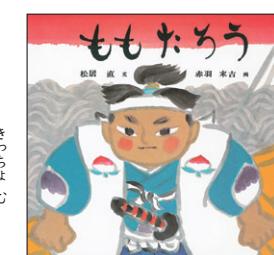
いっきゅう
一休さん



みんなの すむ ところには、
どんな お話 が ありますか。
お話を たのしみましょう。



きつちよむ
吉四六さん



ももたろう



じゅんじょに 気を つけて



じゅんじょに 気を つけて
読もう

これまでの がくしゅう
いちねんせい
一年生の まなびを たしかめよう
(せつめいする 文しよう)

7ページ



2

たんぽほの ちえ

じょうほう じゅんじょ

たんぽほの ちえとは、どんな
ものでしょか。たんぽほに ついて
しって いる ことを、ともだちと
話 しましよう。

たんぽぽの ちえ

うえむら としお 文
せと あきら 絵



○ 黒くろ
○ 黄色いろ
い

二、三日 たつと、
その 花は しぶんで、
だんだん 黒っぽい
色に かわって いきます。

春に なると、
たんぽぽの
黄色い きれいな
花が さきます。

そうして、たんぽぽの 花の じくは、

ぐつたりと ジめんに たおれて しまいます。

けれども、たんぽぽは、かれて しまった

のでは ありません。花と じくを

しづかに 休ませて、たねに、たくさんのが

いようと おくつて いるのです。

こうして、たんぽぽは、たねを どんどん太らせるのです。

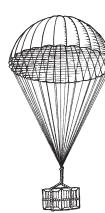
やがて、花は すっかり かれて、そのあとに、白い わた毛が てきて きます。

10

○太らせる
○わた毛

この わた毛の ひとつ一つは、ひろがると、ちょうど らつかさんのように なります。たんぽぽは、この わた毛に ついて いるたねを、ふわふわと とばすのです。

5



らつかさん

この ころに なると、それまで たおれていた 花の じくが、また おき上がります。

5

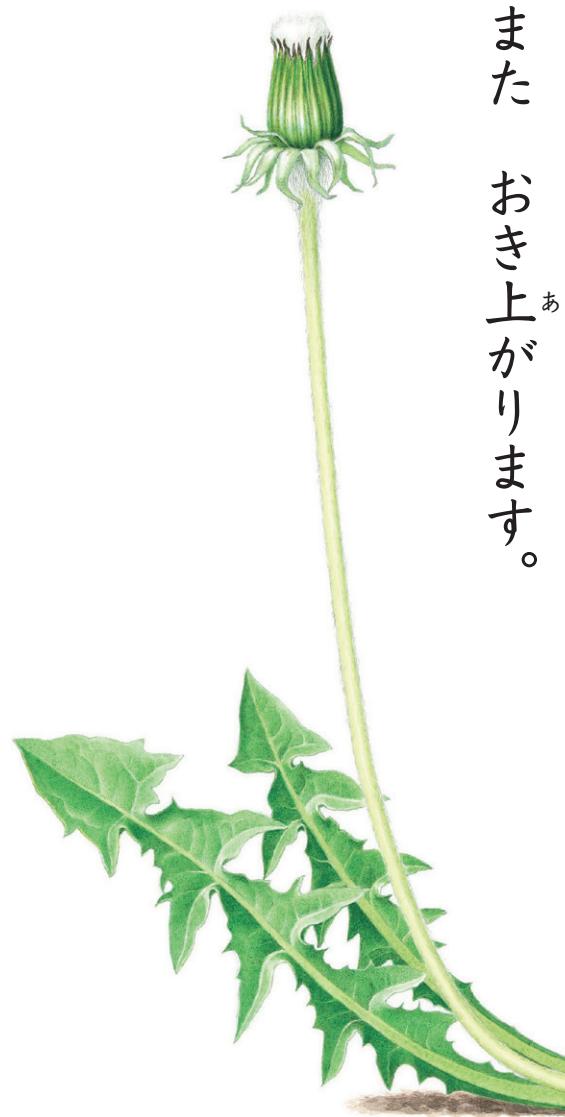
そして、せのびを

するように、

ぐんぐん のびて

いきます。

10



なぜ、こんなことをするのでしょうか。それは、せいを高くするほうが、わた毛に風がよくあたつて、たねをとおくまでとばすことができ、からです。

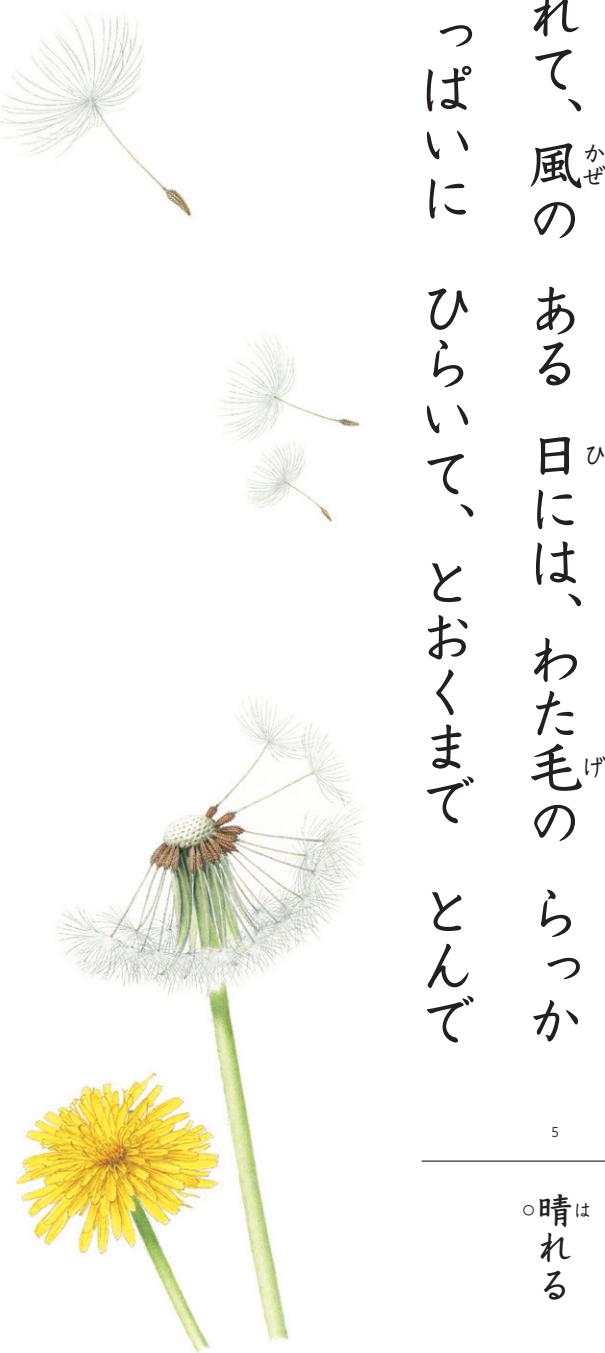
よく晴れて、風のある日には、わた毛のらつかさんは、いっぱいにひらいて、とおくまでとんでいきます。



○多い
・しめり気け

でも、しめり気の多い日や、雨ふりの日には、わた毛のらつかさんは、すぼんでしまいます。それは、わた毛がしめつて、おもくなると、たねをとおくまでとばすことができます。5

このように、たんぽぽは、いろいろなちえをはたらかせています。そして、あちらこちらにたねをちらして、あたりなかまをふやしていくのです。



○晴れる
○風かぜ
○高い





見とおしをもとう

じゅんじょに 気を つけて 読もう

- ・じゅんじょが 分かる ことばに 気を つけましょう。
- ・たんぽぽが、どんな ちえを はたらかせて いるかを たしかめましょう。

● たんぽぽの ちえが いくつ あるか
を、かんがえながら 音読しましよう。

● たんぽぽは、いつ、どんな ちえを
はたらかせて いますか。ときを あら
わす ことばや、かわって いくじゅ
んじょに 気を つけて 読みましょう。

● たんぽぽの ちえには、どんな わけ
がありますか。文の おわりのこと
ばに 気を つけて、たしかめましょう。

● — のです。 ● — からです。

● たんぽぽの ちえで、かしこいと 思

う ところは、どこですか。わけと
いつしょに 書きぬきましょう。あなた
が 思つた ことも 書きましょう。

5

● ともだちが 書いた ものを 読んで、
じぶんと おなじだなど 思つた こと
を つたえあいましょう。

思つた ことを 書く ときの ことば

- ・ ふしぎだと 思いました。
- ・ おもしろいと 思いました。
- ・ もっと しりたく なりました。

ひろげよう

まとめよう

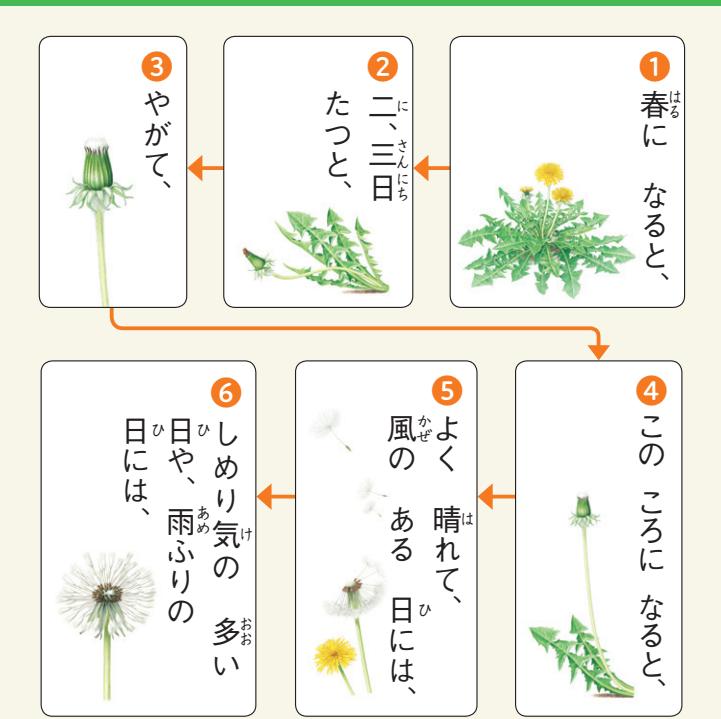
ふかめよう

とらえよう



ふりかえろう

- しる じゅんじょが 分かる ことばを、いくつ 見つける ことが できましたか。
たんぽぽは、どんな じゅんじょで ちえを はたらかせて いましたか。
- 読む たんぽぽ、どんな じゅんじょで ちえを はたらかせて いましたか。
- つなぐ なにかを せつめいする ときに、どんな ことばを つかいたいですか。





せつめいする 文しようを 読む

せつめいする 文しようを
読む ときには、つぎの ことに
気をつけます。

- じゅんじょ

●わけ



この本、読もう

書かれた 本です。どんな ちえが
あるでしょうか。

チューリップ



スミレとアリ



たねのすかん



黄 黄 黄 黄 黄 黄 黄 黄 黄 黃色い
色 色 色 色 色 色 色 色
黒 黒 黑 黑 黑 黑 黑 黑 黑 黒
太 太 太 太 太 太 太 太 太
毛 毛 毛 毛 毛 毛 毛 毛
高 高 高 高 高 高 高 高 高
風 風 風 風 風 風 風 風 風
（毛） 多 多 多 多 多 多 多
晴 晴 晴 晴 晴 晴 晴 晴 晴
多 多 多 多 多 多 多 多
わた毛 (け) 多 多 多 多
多い
多い

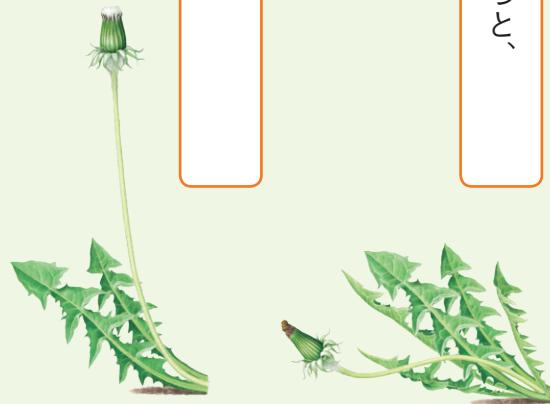
つながりを とらえよう じゅんじょ



つながりを とらえよう
じゅんじょ

二、
三日
たつと、

やがて、



文しようを 読む ときだけでは
なく、話す ときや 聞く とき、
書く ときにも、じゅんじょを
かんがえるように しましよう。

・じかんの じゅんじょ

・しかたの じゅんじょ

▼つぎの ことを、じゅんじょが 分かるように 話しましよう。

・あさ おきてから したこと。

・きゅうしょくの じゅんびの ようすが、じかんの じゅんじょで

「たんぽほの ちえ」は、たんぽほの
ようすが、じかんの じゅんじょで
せつめいされて いました。

「たんぽほの ちえ」は、たんぽほの
ようすが、じかんの じゅんじょで

ていねいに かんさつして、きろくしよう

かんさつ名人に なろう

かつて いる 生きものや、そだてて いる
しょくぶつを、ていねいに かんさつして、
きろくしよう。



1 かんさつする ものを きめて、
ていねいに かんさつしよう。

ようすや うごきを、ていねいに かんさつしよう。
・大きさや 形 色を 見る。 •長さを はかる。

・いろいろな 方から 見る。 •さわる。
・数を 数える。 •においを かぐ。

かんさつした ことは、かんたんに
メモして おきましょう。

ミニトマト
五月十八日 晴れ
黄色い花がさいた。

花びらが、そりかえっていた。
花の形は、ほしみたいだった。



せいかつのはじかんに
そだてて いる、ミニトマトの
ことを 書こう。



うちで かつて
いる かたつむりを
かんさつしよう。

•数かず・方ほう・長なが・形かたち
•生きもの
•名めいじん人

ふりかえろう

4 書かいた 文ぶんしようを 読よみあう。

3 かんさつした ことや 気づいた
ことを、ともだちと 話はなす。
2 見つけた ことや 気づいた
ことを、ともだちと 話はなす。

1 かんさつする ものを きめて、
ていねいに かんさつする。

たしかめよう

「一年生の まなびを たしかめよう」

6ページ

2 見つけたことや気づいたことを、ともだちと話そう。

かんさつして見つけたことや気づいたことを、メモを見ながら、ともだちと話しましょう。

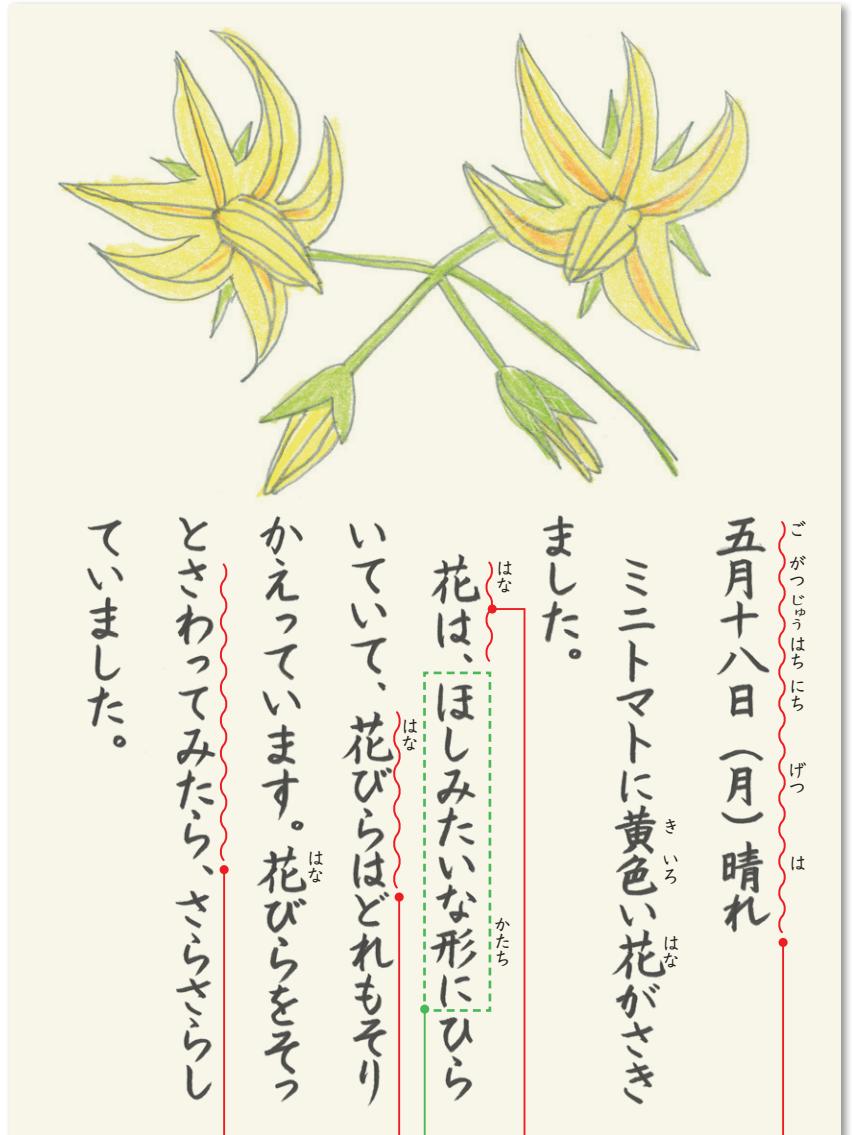
そして、なにを文しようにして、なにを書くかをきめましょう。



3 かんさつしたことをきくする文しようを書いてみよう。

かんさつしたことが、よく分かるように書きましょう。

ともだちに、分からないことをきいてもらうと、書いておくとよいことが見つかることもあります。



どうやってかんさつしたのかを書く。

「みたいだ」「ようだ」などをつかって、ようすをくわしく書く。

「花は」「花びらは」などのことかが分かるように書く。

ひづけ、曜日、天気を書く。

ひづけ、曜日、天気を書く。

5
10

形 形形形形形形形
長 長長長長長長長長

形 かたち

数 数数数数数数
体 体体体体体体

か かず

近 近近近近近近
同 同同同同同

おなじ ちかづける



ふりかえろう

□ しる
□ 書く
□ つなぐ

かんさつした ことが よく 分かるように
書けて いるな、じょうずに
書けて いるなど 思つた ところを、
ともだちに つたえましょう。

かんさつして いるな、じょうずに
ともだちの 文しょうを 読んで、まねしたいと
思つた ところは どこですか。

おも

4 書いた 文しょうを 読みあおう。

よく かんさつして いるな、じょうずに
書けて いるなど 思つた ところを、
ともだちに つたえましょう。

かんさつした ことが よく 分かるように
書けて いるか、読みかえしましょう。

ミニトマトのみが 大きくなつて
きました。いちばん大きなみは、
ビーワー玉 だま ぐらいです。色は、みどり
色です。さわってみると、つるつ
るしていました。みの先の方には、
かれた花 はな がついていることに
気がつきました。
かおを近づけたら、赤いトマト
と同じにおいがしました。



つづけて きろくして
いくと、かわって いく
ようすが 分かるよ。

△ ビー玉
○ 同じ
○ 近づける



たいせつ

かんさつした ことを 書く

- 見たり、さわったり、においをかいだりして、ていねいに かんさつする。
- かんさつした ことを、くわしく 書く。

■ 気が ついた ことや、見つけた
ことを 書く ときに つかう ことば
・ 分かりました。 • 気が つきました。
・ 見つけました。

ことば 同じ ぶぶんを もつ かん字

おな

かん字には、同じ ぶぶんを
もつ ものが あります。

同じ ぶぶんを 絵の 中の かん字を 見て、
かん字を、読んだり 書いたり しましよう。



▼同じ ぶぶんに 気を つけて、□の中の
かん字を、読んだり 書いたり しましよう。

・学校で、かん字を ならう。

今 今今今今
会 会会会会会
社 会会会会会
刀 刀刀
切 切切切

・この 小刀は、よく 切れる。

内 内内内
内 内内内

かう。

・姉と妹が、なかよく あそぶ。

姉 姉姉姉姉姉姉姉
妹 姐姉姉姉姉姉姉
线 线线线线线线线

・晴れた日に、プールへ 行く。

・太い線で絵を かく。

海 海海海海海海
汽 汽汽汽汽汽汽
线 线线线线线线线
店 店店店店店店店
内 内内内
内 内内内

○海み。○汽車。○線せん。○妹いもうと。○姉あね。○店みせ。○町ちよ。○内ない。○内い。○切れ
る。○切き。○小こがたな。○刀かたな。○会かいしゃ。○社かいしゃ。○今いま。

・汽車の まどから、海が 見える。

10

5

ことば うれしいことば

どんなときにも、どんなことばを言つてもらうと、うれしいですか。

ともだちと出しあいましょう。

- ・がんばったとき
- ・ひとりでいたとき



おとしものをしたとき、「いつしょにさがそう」と言つてもらつて、うれしかったよ。

わたしは、「ありがとう」って言わると、うれしいな。



うれしいことばを書きましょう。

じょうずだね

さかい まさし

なわとびを、八十回も

づけてとべました。

あおやまさんが見ていた、

「じょうずだね」

と言つてくれました。

とてもうれしかったです。

5

いっしょにあそぼう

きくち ありさ

ひとりでこうていを歩

いていたら、どいさんが、「いっしょにあそぼう」

とさそつてくれました。

こんどは、わたしがさ

そおうと思ひます。

5

こんどは、
わたしが、この
ことばを言つ
てあげたいな。

歩く

八十回

ある

ともだちの「うれしいことば」をしつて、

どう思いましたか。

歩 回 回回回回回

歩歩歩歩歩歩歩歩歩歩歩歩

歩く

八十回

3

スイミー

魚の「スイミー」は、きょうだいたちとたのしくくらしていまし
た。「スイミー」たちに、どんなこ
とがおこるのでしょう。



 読む
お話を読んで、
しようかいしよう

これまでの がくしゅう
 おはなしを たしかめる (ふきのとう) …… 26 ページ



1

絵の中のことばをつかって、文をつくりましょう。
へれいしまから見える夕日は、赤くて、とてもきれいです。

スイミー

レオ＝レオニ　さく・絵え

たにかわしゅんたろう　やく



広い　海の　どこかに、小さな　魚の　きょううだい

たちが、たのしく　くらして　いた。

みんな　赤いのに、一匹だけは、からす貝よりも
まつくる。およぐのは、だれよりも　はやかつた。

名前は　スイミー。

5

○名前　まえ

○広い　ひろい

○魚　さかな

ある 日、

おそろしい まぐろが、
おなかを すかせて、
すごい はやさで
ミサイルみたいに
つづこんで きた。

一口で、まぐろは、

小さな 赤い

魚たちを、一匹き

のこらす のみこんだ。

にげたのは

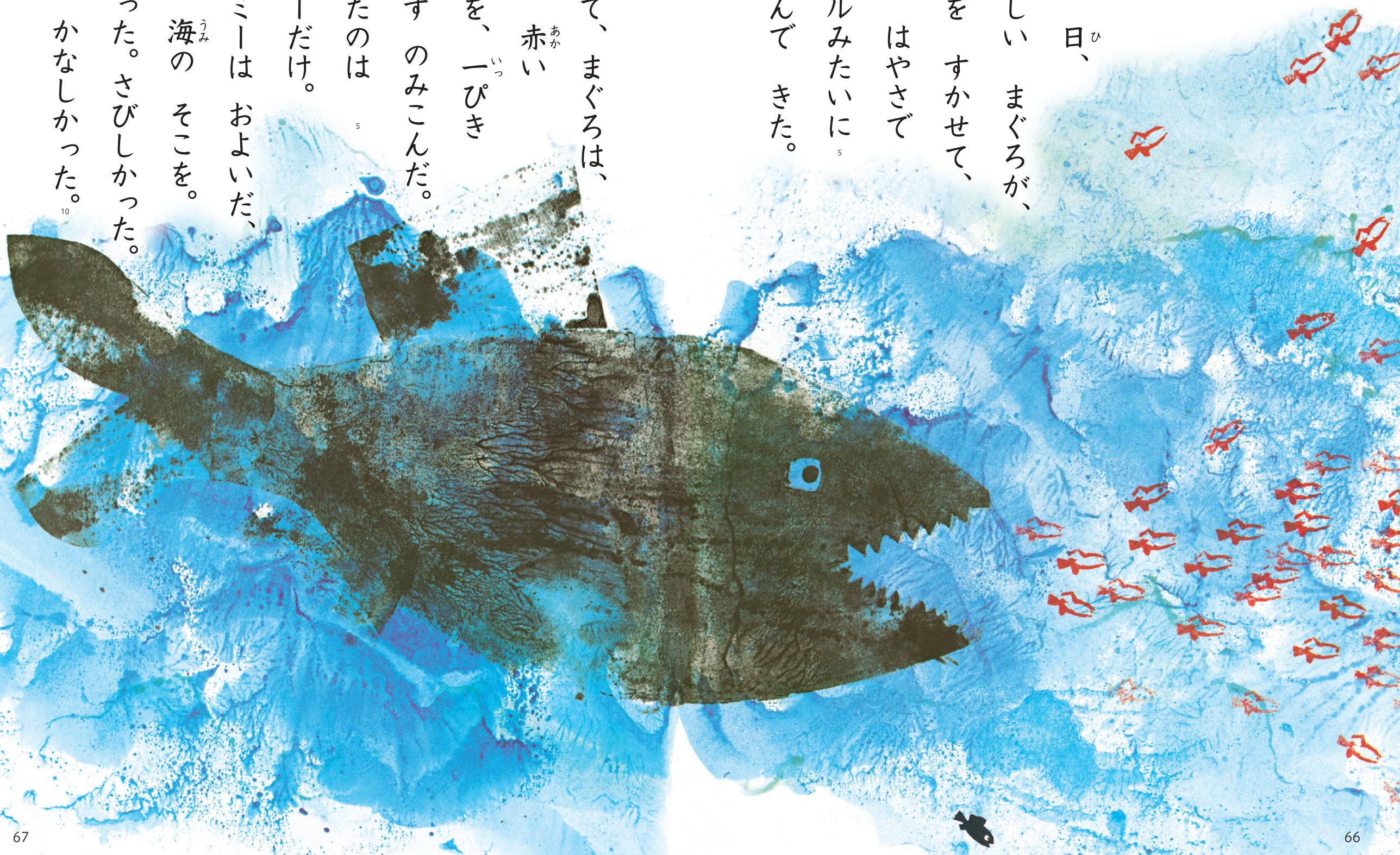
スイミーだけ。

スイミーは およいだ、

くらい 海の そこを。

こわかつた。さびしかつた。

とても かなしかつた。



けれど、海には、すばらしいものがいっぱい
あつた。おもしろいものを見るたびに、

スイミーは、だんだん元気を

とりもどした。

にじ色の

ゼリーのようなくらげ。

水中ブルドーザーみたいな

いせえび。

見たこともない

魚たち。見えない糸で

ひっぱられている。

ドロップみたいな岩から

生えている、こんぶや

わかめの林。

うなぎ。かおを見る

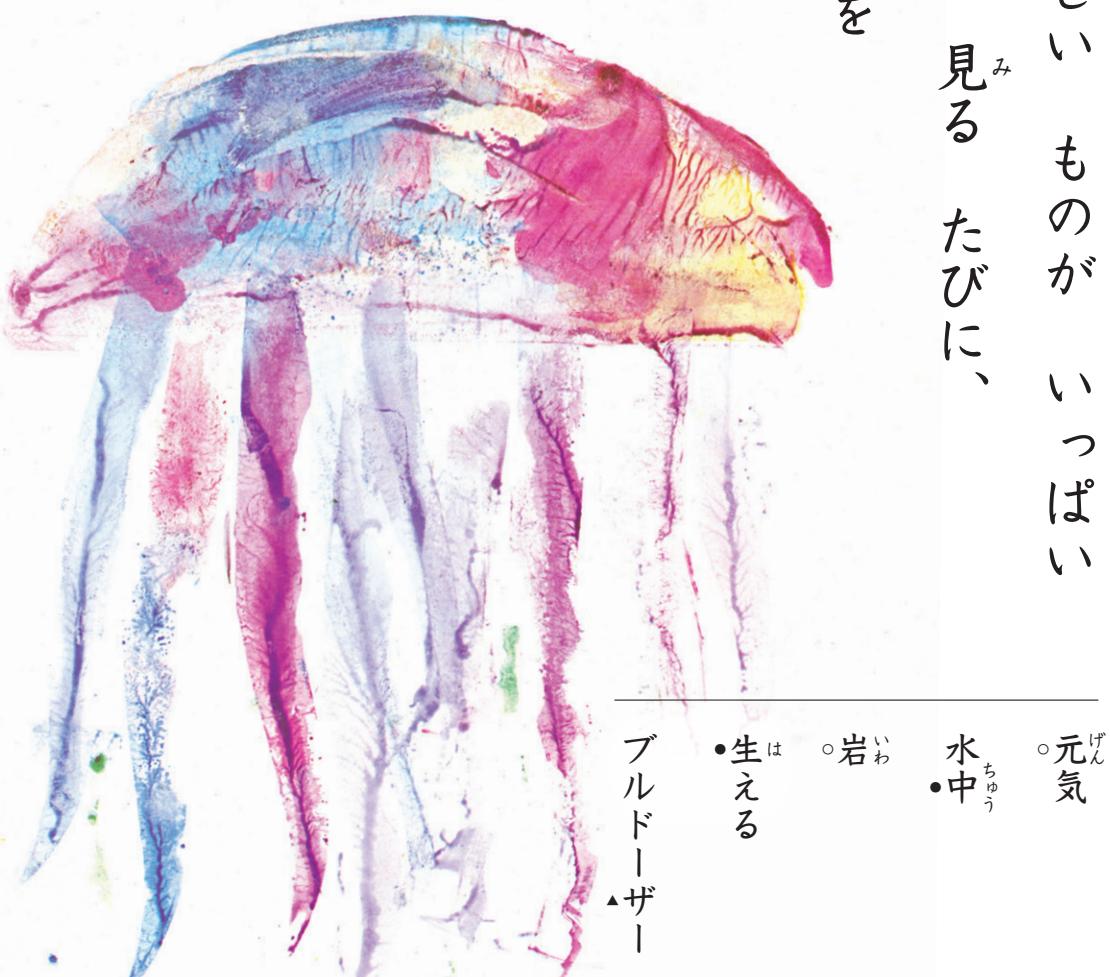
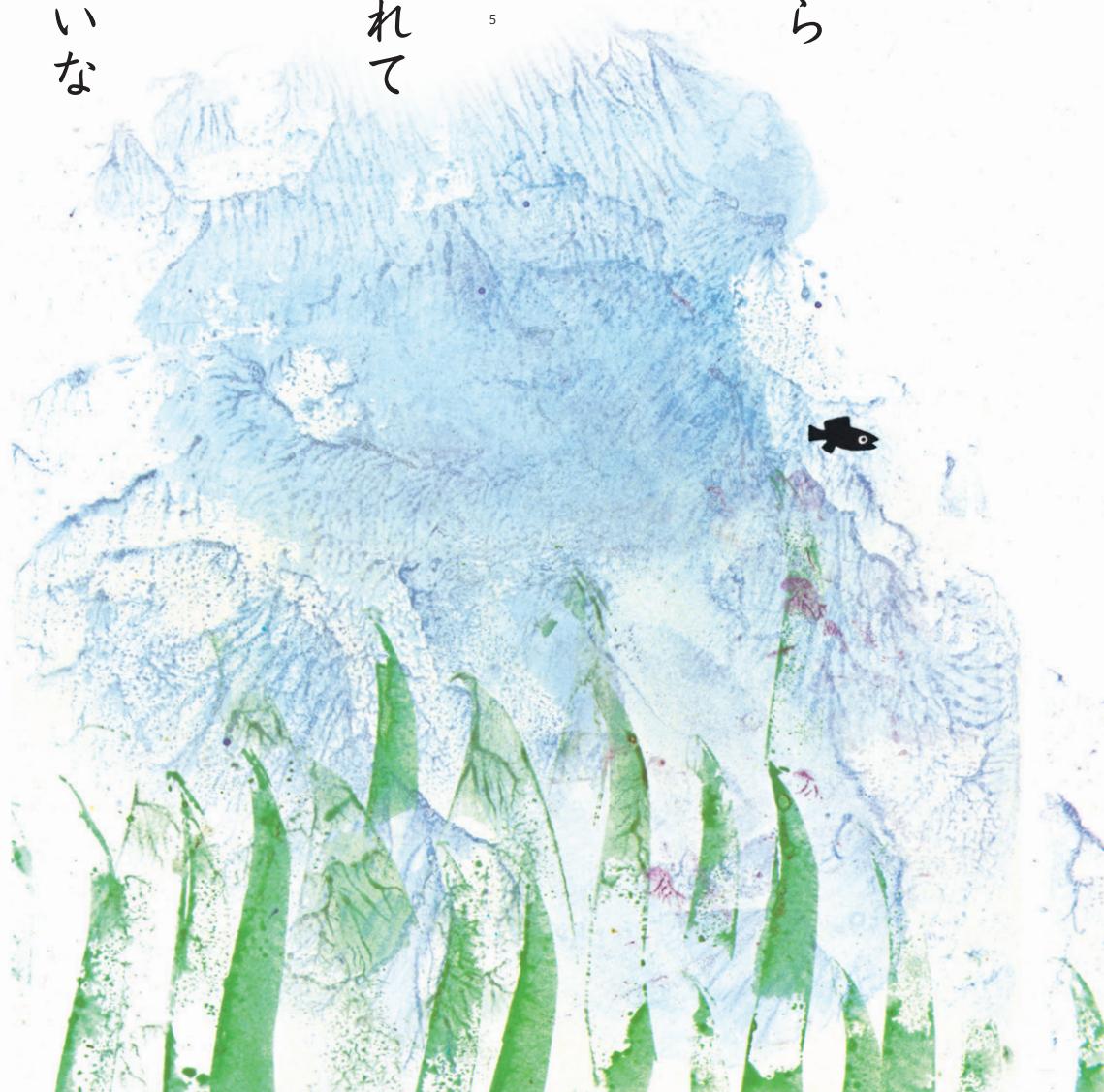
ころには、しっぽをわすれて

いるほど長い。

そして、風にゆれる

もも色のやしの木みたいな

いそぎんちやく。



そのとき、岩かげに
スイミーは見つけた、
スイミーのとそつくりの、



小さな魚のきょうだいたちを。

スイミーは言つた。

「出てこいよ。みんなであそぼう。

おもしろいものがいっぱいだよ。」

小さな赤い魚たちは、こたえた。

「ダメだよ。大きな魚にたべられてしまうよ。」

「だけど、いつまでもそこにじつとしている

わけにはいかないよ。なんとかかんがえなくちゃ。」

スイミーはかんがえた。いろいろかんがえた。

うんとかんがえた。



それから、とつぜん、

スイミーは さけんだ。

「そうだ。みんな

いつしょに およぐんだ。

海で いちばん 大きな

魚の ふりを して。

スイミーは 教えた。けつして、

はなればなれに ならない こと。

みんな、もちばを まもる こと。

みんなが、一ぴきの 大きな

10

魚みたいに およげるようになつた とき、

スイミーは 言った。

「ぼくが、目に なろう。」

あさの つめたい 水の 中を、

ひるの かがやく 光の 中を、

みんなは オヨギ、

大きな 魚を おい出した。

レオ=レオニさんは、「せかい
うち」「あいうえおの き」なども
書いて います。

○光 ひかり
○教える おし
れる





見とおしをもとう

お話を 読んで、しようかいしよう

- ・よつすが 分かる ことばを見つけましょう。
- ・じんぶつが したことや、できごとに 気を つけて 読みましょう。

あらすじ

156
ページ

ふりかえろう

- しる よつすが 分かる ことばには、どのような ものが ありましたか。
 読む あらすじを まとめる とき、どんな ことに 気を つけましたか。
 つなぐ ともだちの 文しようを 読んで、いいなど 思った ところは どこですか。

ひろげよう

まとめよう

ふかめよう

とらえよう

- できごとの ようすが 分かる こと
ばに 気を つけて、お話を そうぞう しましよう。
- いえの 人に、「スイミー」を しょ うかいする 文しようを 書きましょう。

5

10

文しようの れい

「スイミー」というお話には、およぎがはやくて、一匹だけ黒い、スイミーという魚が出てきます。ある日、おそろしいまぐろが、スイミーのきょうだいたちをのみこんでしまいます。スイミーは一匹だけにげます。

スイミーたちは、力をあわせて、大きな魚をおい出しました。このお話を読んで、みんなで力をあわせると、なんでもできるんだと思いました。

あらすじ

10

5

- じんぶつが したことや、できごとを ちゅうしんに、お話を みじかく まとめた ものを、あらすじと いいます。
 - お話の ながれを たしかめましょう。
- (1) 「スイミー」は、どんな じんぶつですか。
- (2) どんな できごとが おこりましたか。

5

10

たとえを あらわすことば

「――ような」「――みたいな」などのたとえを あらわすことばにも 気をつけましょう。

10

5

おわり	中なか	はじめ
・ 大きな魚をおい出した。	・ 「スイミー」の しようかいを 書く	・ おそろしいまぐろがやつてくる。 ・ 小さな赤い魚たちがのみこまれる。 ・ スイミーは、にげる。 ・ 海のおもしろいものを見る。

5



かたかなの
ひろば

絵の 中の ことばを つかって、文を つくりましよう。
「れい」 犬が、ゴールを 目めざして はしって います。

魚 魚魚魚魚魚魚魚魚
広 広広広広広
前 前前前前前前前
名前 なまえ
広い ひろい
元 元元元元
岩 岩岩岩岩岩岩岩岩
元気 げんき
教 教教教教教教
光 光光光光光
光 ひかり

- じんぶつが した ことや できごとを、みじかい ことばで 書く。
- 書いた ものを、お話の じゅんに つなげる。

あらすじを まとめる



この本、読もう
レオ・レオニさんの お話を さかなは さかな と コーネリアス はじめるよ



あつめる ときに つかおう メモを とる とき



メモには、おぼえて おきたい ことや あとから たしかめたい こと、だれかに 知らせたい ことなどを、みじかい ことば で 書きます。

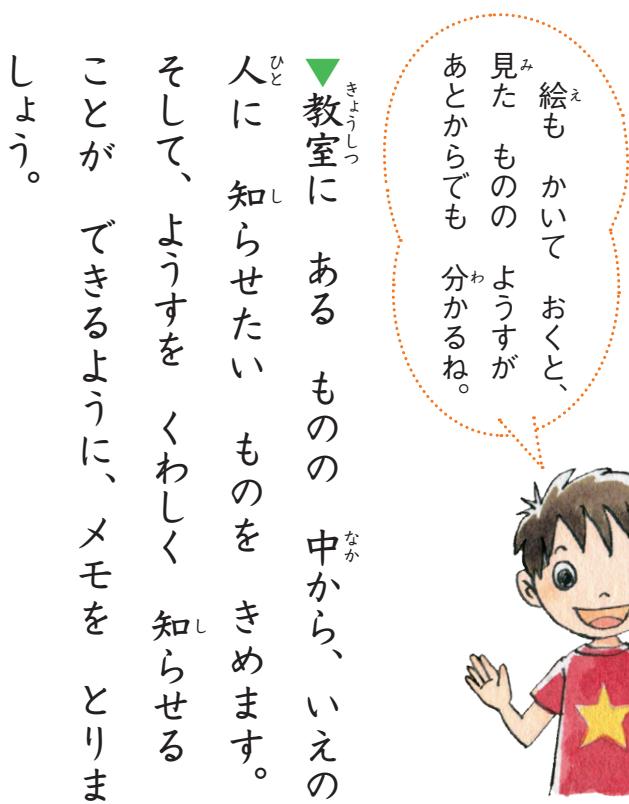
メモを とる ときは、つぎの ことに 気を つけましょう。

- メモに 書くと いい ことは なにかを 考える。
- 正しく 書く。

▼書いた メモを 見せあいましょう。
いい 書き方だと 思つた ところを、

ともだちに つたえましょう。

メモを 書いた あとは 見かえして、ほかに 書いて おくと よい ことは ない かを たしかめるように しましよう。

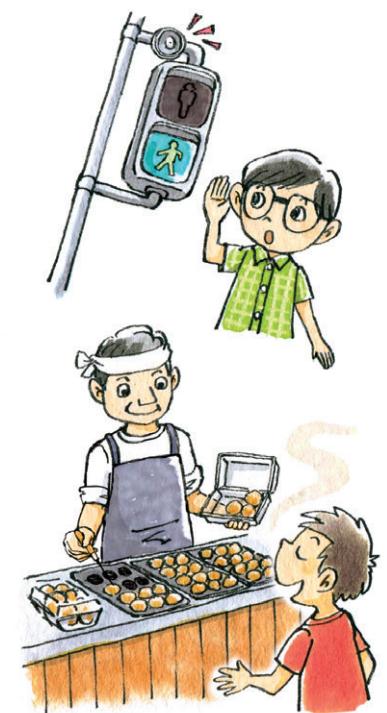


組み立てを 考えて 書き、知らせよう

こんな もの、見つけたよ

町の中を たんけんすると、いろいろな ものに
出会います。

おもしろいなど 思つた ものを 文しよう して、
ともだちに 知らせましょう。組み立てを 考えて、
分かりやすく 書きましょう。



たしかめよう

「一年生の まなびを たしかめよう」

6ページ

がくしゅうの すすめ方

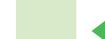
かた

1 見つけた ものを 書きとめる。
組み立てを 考える。

2 書いて、読みかえす。
みんなで 読んで、かんそうを つたえる。

3 ふりかえろう
4 見つけた ものを 書きとめる。
みんなで 読んで、かんそうを つたえる。

ふりかえろう



1 見つけた ものを 書きとめよう。

見つけた ものや 気づいた ことを、メモしましょう。

知りたい ことが あつたら、先生や まわりの 人に
たずねましょう。

「メモを とる とき」

78ページ

○後ろ

どんな ことを
メモして おくと
いいかな。

どこで 見つけたか
見つけたか

なんか
ものか

・大きさ、形、色
・数
・どんな
ものか

など

どこで 見つけたか
書いて おかないと、
わすれそう。



組み立て
出会い

組み立て

出会い

2 組み立てを 考えよう。

メモをもとに、「はじめ」「中」「おわり」の組み立てでなにを書くかを考えましょう。ともだちとこうかんして、そだんしましょう。

かんが
思ふ

・きれいな花がさいている木を、くじらう
えんで見つけた。

し
こと
らせたい

・きれいな花がさいている木を、くじらう
えんで見つけた。

なか

中

はじめ

おわり

3 書いて、読みかえそう。

はじ め	くわ しい せつ めい	ま とめ の こと ば	・ブランコの後ろに生えていた。 ・木のみきが、つるつるしている。 ・ピンクの花がさいている木が一本、白い花が さいている木が二本あった。 ・先生にきいてみたら、さるすべりという木 だと教えてくれた。
なか 中	くわ しい ば しょ は、 か ぎ （「 — 」）を つかつ て、 聞 いた こ と を 書 こ う か な。	・みんなにも、さるすべりの花を見てほしい。	「はじめ」に、見つけた ものと、見つけた ばしょを 書いて みたよ。



156
ページ

組み立て
文しようなどが、
どんなまとまり
とじゅんじよで
できているかと
いうこと。

はじめ	くわ しい せつ めい	ま とめ の こと ば	・みんなにも、さるすべりの花を見てほしい。
なか 中	くわ しい ば しょ は、 か ぎ （「 — 」）を つかつ て、 聞 いた こ と を 書 こ う か な。	・わたしは、くじらうえんで、きれいな花が さいている木を見つけました。	「はじめ」に、見つけた ものと、見つけた ばしょを 書いて みたよ。

はじめ	くわ しい せつ めい	ま とめ の こと ば	・わたしは、くじらうえんで、きれいな花が さいている木を見つけました。
なか 中	くわ しい ば しょ は、 か ぎ （「 — 」）を つかつ て、 聞 いた こ と を 書 こ う か な。	・ブランコの後ろに、ピンクの花がさいている木 が一本、白い花がさいている木が二本ありました。 木のみきをさわってみると、つるつるしていて、 びっくりしました。	「はじめ」に、見つけた ものと、見つけた ばしょを 書いて みたよ。



かぎ（「—」）を
つかつて、
聞
いた
こ
と
を
書
こ
う
か
な。

10

5

はじめ	くわ しい せつ めい	ま とめ の こと ば	・きれいな花がさいた木 ナニキ まな
なか 中	くわ しい ば しょ は、 か ぎ （「 — 」）を つかつ て、 聞 いた こ と を 書 こ う か な。	・わたしは、くじらうえんで、きれいな花が さいている木を見つけました。	ナニキ まな

ナニキ まな

ひと
から
聞いた
話
は、
か
ぎ
を
つかつ
て、
聞
いた
こ
と
を
書
こ
う
か
な。

「それは、さるすべりの木ですよ。」

と教えてくれました。

みなさんも、ぜひ、さるすべりのきれいな花を見に行つてください。

はじめ	くわ しい せつ めい	ま とめ の こと ば	・きれいな花がさいた木 ナニキ まな
なか 中	くわ しい ば しょ は、 か ぎ （「 — 」）を つかつ て、 聞 いた こ と を 書 こ う か な。	・わたしは、くじらうえんで、きれいな花が さいている木を見つけました。	ナニキ まな

はじめ	くわ しい せつ めい	ま とめ の こと ば	・きれいな花がさいた木 ナニキ まな
なか 中	くわ しい ば しょ は、 か ぎ （「 — 」）を つかつ て、 聞 いた こ と を 書 こ う か な。	・わたしは、くじらうえんで、きれいな花が さいている木を見つけました。	ナニキ まな

みんなで 読んで、かんそうを つたえよう。

ともだちの 文しようを 読んで、はじめて 知った ことや、
分かりやすかつた ところを つたえましょ。

わ 分かりやすかつた ところを つたえましょ。



くじらこうえんに、つるつるの
木があるなんて、知らなかつたよ。
ぼくも、さわって みたいた。



はじめに、なにを
知らせたいかが
書いて あって、
分かりやすかつた。



組み立てを 考えて 書く



●「中」に、知らせたい ことを、くわしく
書く。



●「はじめ」に、なにを 知らせたいかを
書く。



●「おり」に、まとめの ことばを
書く。

ふりかえろう
□ 知る
□ 書く
□ つなぐ
□ 知らせたい
□ ともだちの
□ 文しようを
□ 読んで、
□ 分かりやすいなど
□ 思つた
□ おもむろに、
□ なにを
□ 知らせたいかが
□ 書いて
□ 分かりやすかつた。

どんな ことを メモして おくと よいと 思いましたか。
知らせたい ことが 分かりやすく なるように、「中」を どう 書きましたか。
ともだちの 文しようを 読んで、分かりやすいなど 思つた ところは、どこですか。

丸、点、かぎ

● 丸 (まる)
● 点 (てん)

文の おわりに つけます。

● 点 (てん)
文の 中の 切れ目に つけます。

● かぎ (「」)

人の 話した ことば(会話)につけ

ます。会話は、行を かえて 書きます。

● かぎ (「」)
丸 (まる)、点 (てん)、かぎ (「」) (「」) は、
それぞれ 一 ますに 書きます。丸と
かぎ (「」) も、一 ますに 書きます。

10

点 (てん) を うたないと、文の いみが
正しく つたわらない ことが あり
ます。

● この店ではきものを 買う。

● この店では、きものを 買う。
● この店で、はきものを 買う。

(ますめ) ある ノートなどに 書く とき

10

5

○ 買う
● 行う
○ 会話
○ 点
○ 丸

と		てん	かぎ
教	で	そ	先
え	す	れ	せん
て	よ	は	せ
く	れ	き	せ
ま	ま	さ	せ
し	し	る	せ
た	た	す	せ
。	。	べ	せ
		り	せ
		の	せ
		木	せ

10

5

組
組組組組組組組組組組
組み立て
後
後後後後後後後後後後

丸
丸丸丸丸丸丸丸丸丸
丸

買
買買買買買買買
買

しつもんをしあつて、くわしく考えよう

あつたらいな、こんなもの

「今はなけれど、こんなものが あつたらいな。」と
考えると、なんだかわくわくしてしませんか。

友だちとしつもんをしあつて、あつたらいなと 思う
もののこと、くわしく考えましょう。



1 あつたらいなと 思うものを、絵にかこう。



しつもん

分からぬこと
などを 人にきく
こと。
155 ページ

○羽 ^{はね}
○友 ^{とも}
だち

2 くわしく考えるために する しつもんを、 たしかめよう。

友だちとしつもんをしあつて、あつたらいなと 思うものを
くわしく考えます。下のようなことをしつもんすると、友だち
が 考えていることを、はつきりさせることができます。

しつもんすること

- あつたらいなと 思うわけ
- はたらき（できること）
- 形や色、大きさなど

たしかめよう

「一年生の まなびを たしかめよう」

5ページ

がくしゅうのすすめ方

1 あつたらいなと 思うものを、
絵にかく。

2 くわしく考えるために する
しつもんを、たしかめる。

3 しつもんをしあつて、くわしく
考える。

4 はつびょうし、かんそうを
つたえあう。

ふりかえろう



3 しつもんをしあつて、くわしく考えよう。

絵を見せながら せつめいをし、友だちから しつもんを してもらつて、考えをくわしくしましよう。



あつたらしいなと 思うわけ

どうして、あつたらしいなと思つたの。
おも

思つたからだよ。
おも

はたらき (できること)

さんぽのほかには、どんなことができるの。

空をとんで、どこへでも行けるし、空でちゅ
うがえりもできるよ。

形や色、大きさなど

それは、どんな形や色を しているの。

かたち

形や色、大きさなど

それは、どんな形や色を しているの。

かたち

とんぼの羽みたいな 形をしているよ。
いろ

色は、すきとおつていてるんだ。

大きさは、どれぐらいなんだろう。

ランセルみたいに せなかにせおえるくら
いの大きさだよ。

4 はつぴょうし、かんそうをつたえあおう。

グループになり、はつぴょうしあいましょう。はつ
ぴょうするときは、「です」「ます」などの ていねいな
言い方をします。聞いた人は、かんそうをつたえましょう。



しつもんをして、
あいての考え方をひき出す

- あいての考え方を くわしく聞く
ために、だいじなことは なに
かを考えて、しつもんする。
- ていねいな言い方と、ふつうの
言い方の どちらをつかうとよ
いか、考える。

こたえたことを メモしておくと、
はつぴょうするときに やくに立ちます。

わけ
・空をとんで、どこへでも行ける。
・空でちゅうがえりができる。
形や色、大きさ
・とんぼの羽の形。
・すきとおつていてる。
・せなかにせおえるくらいの大きさ。



友 友友友 友だち

羽 羽羽羽羽羽 羽

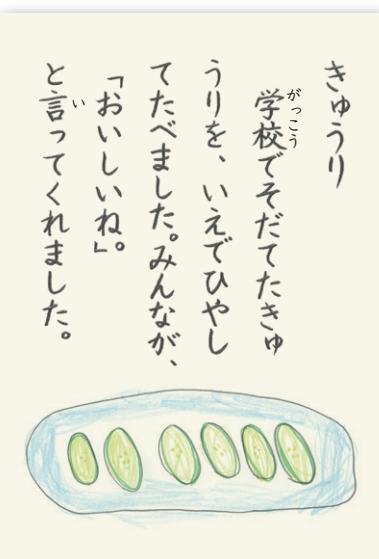
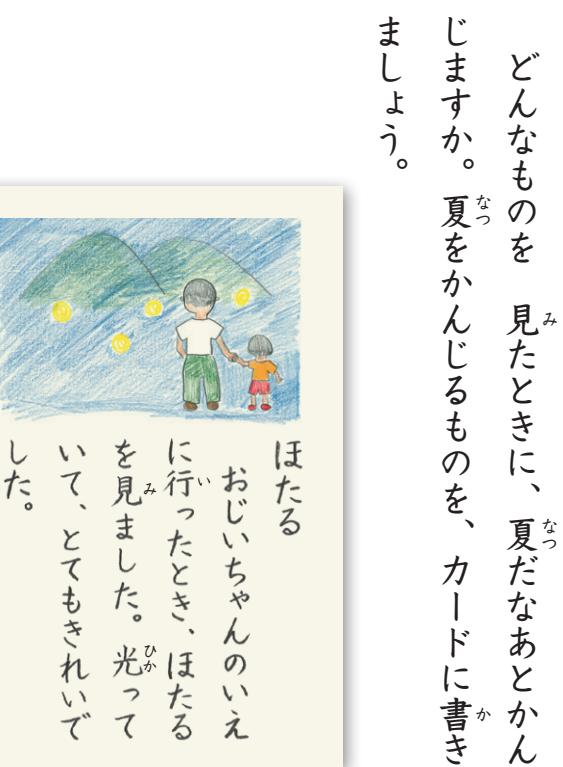
雲 雲雲雲雲雲雲雲 雲



ふりかえろう
□ 知る
□ 話す・聞く
□ つなぐ
□ つなぐ
話す人の考え方を くわしく聞くために、どんなしつもんをしましたか。
つぎに しつもんをするときには、どんなことに 気をつけたいですか。

なつ 夏が いつぱい

どんなものを 見たときに、夏だなあとかんじますか。夏をかんじるものを、カードに書きましょう。



15 10

○夏

みんみん

たにかわしゅんたろう

みんみんなくのはせみ
そうつとちかづくあみ
はやしのむこうにうみ
きらきらかがやくなみ
よびごえきこえるみみ
いちばんなかよしきみ
どこやにいつたねかみ
まつかにみのつたぐみ

5



本
は
友
だ
ち

お気に入りの本を しようかいしよう

あなたは、これまでに、どんな本を 読んできましたか。
お気に入りの本を、友だちにしようかいしよう。



1 これまでに読んだ本を ふりかえろう。

二年生になつてから、どんな本を
読んできましたか。読書きろくなどを
読みかえして、思い出しましょう。

二 十 四 日	六 月	読 ん だ 日
	ミリーのすてきなぼうし	だいめい
	きたむらさどし	書いた人ひと
◎	おもしろかった	しるし

わたしは、虫むしがすきだか
ら、虫の本ほんをたくさん読よんで
んだんだ。「あめんぼがと
んだ」が、おもしろかつた。



レオリレオニさんの
本ほんを、三さんさつ読よんだよ。
絵えがきれいで、たのし
いお話はなしだった。

ぼくは、図書館としょかんのおすす
めコーナーの本ほんを、よくか
りたよ。子どもが出てくる
お話はなしがすきだな。



●がくしゅうのすすめ方

- これまでに読んだ本ほんを ふりかえる。
- しようかいする本ほんをえらぶ。
「ミリーのすてきなぼうし」
97ページ
- 本ほんを読んで、しようかいメモ
を書く。
- 本ほんをしようかいする。

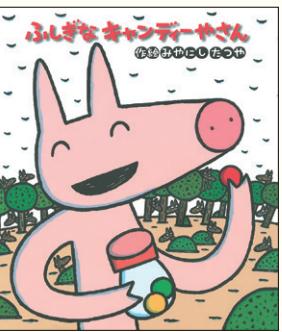
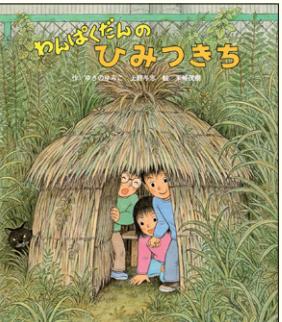


2 しょうかいする本をえらぼう。

これまでに読んだ本や、おもしろそうだと思ったもの友だちにしょうかいしたい本をえらびましょう。

「本のせかいを広げよう」

 141ページ



このお話は、97ページから

読むことができます。

ぼくは、「ミリーのすてきなぼうし」というお話にしようかな。

3 本を読んで、しょうかいメモを書こう。
えらんだ本を読みかえして、どんなところをしょうかいするか、
考えましょう。

「ことばのたからばこ」

 153ページ

だいめい	ミリーのすてきなぼうし
書いた人	きたむら さとし
とうじょう	ミリー 店長さん おばあさん ママ
じんぶつ	ミリーが、そぞうでいろいろなぼうしをかぶるお話。
どんなお話か	ミリーが、公園で、みんながいろいろなぼうしをかぶっていることに気づくところが、たのしい。
すきなところ	



○公園
•店長

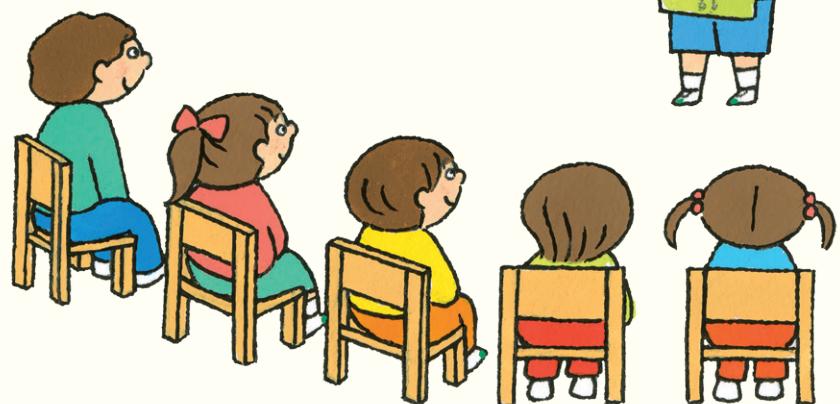
4 本をしようかいしよう。

友だちに、お気に入りの本をしようかいしましょう。



ぼくのお気に入りの本は、きたむらさとしさんの「ミリーのすてきなぼうし」です。この本には、ミリーという女の子が出てきます。ミリーは、そうぞうでいろいろなぼうしをかぶります。みんながいろいろなぼうしをかぶっていることに、ミリーが気づくところが、たのしいです。ぜひ、読んでみてください。

10 5



本をしようかいする

- 本をしようかいするときは、つぎのようなことを話しましょう。
- 書いた人と、本のだいめい。
- どんなとうじょうじんぶつが出てきたか。どんなお話をか。
- すきなところや、おすすめしたいところ。

5

読んでみよう



ミリーのすてきなぼうし

きたむらさとし さく・絵え

ミリーは、さんぽのとちゅう、

ぼうしやさんの前まえを通りました。

ウインドーには、たくさん ぼ

うしがならんでいます。ミリー

は、なかでも、色とりどりの羽はね

のついた ぼうしが気きに入りま

した。



○通とお

ウインドー

店のそとから見えるように、しなも のをならべるまどのこと。

「羽のついたぼうしを、見せてください。」

ミリーは、店長さんにたのみました。

「はい、ただいま。」

店長さんは、さっそく、そのぼうしをもつてきました。ためしてみると、ぴったりです。

「じゃあ、これください。」

ミリーは言いました。

「かしこまりました。」

と、店長さん。

「おねだんは、九万九千九百九十九円でござります。」



ミリーは、おさいふをとり出して、中を見てみました。ちょっと足りないみたいです。

「あの、もうすこしやすいのありますか。」

「どのくらいのおねだんのものがよろしいでしょう。」

店長さんがたずねました。

「あの――、このくらい。」

ミリーは、おさいふをひらいて見せました。中は空っぽです。

「はあ――、そのくらいですか――。」

そうつぶやくと、店長さんは、てんじょうを見上げてしまいました。

ミリーも、同じように見上げました。おもしろいもようのてんじょうです。

「あつ、あります。」

・空っぽ
――(ダッシュ)
さいごまで言いき
らずに、とちゅうで
とめるときなどに
つかうことがある。

・足りる
た

九万
まん

店長さんは、とつぜん、大きなこえで言いました。

「ちようどよいのが、一つありました。

「ちようどよいのが、一つありました。
しょうしょうおまちください。」

「そういふと、お店のうらの方に 行って
しまいました。

しばらくすると、店長さんは、はこを
手にして もどつてきました。そして、
テーブルにおくと、ふたをとりました。
「これは、とくべつなぼうしです。」

店長さんは言いました。

「大きさも形も色も、じゆうじざい。



おきやくさまのそぞうしだいで どんなぼうしにもなる、すばら
しいぼうしです。」

店長さんは、しんちょうに ぼうしをはこからとり出すと、ミリー
の頭にのせました。ぴったりです。とつてもいいかんじです。
「じゃあ、これにしますわ。」

そう言うと、ミリーは、おさいふのなかみを ゼンブ手にとり、店長
さんにわたしました。

「ありがとうございます。」

と、店長さんはおじぎをしました。

「はこに入れて おつつみしますか。」

「いいえ、このままかぶつていくから、けつこうです。
と、ミリーはこたえて、お店を出ました。

ミリーは、あたらしいぼうしが 気に入りました。

「でも、なにかそういうなくちゃ。」

ミリーは思いました。

「じゃないと、ぼうしの形が見えないもの。どんなぼうしにしようかな——。そうだ、お店にあつた いろんな色の羽のぼうし。
あんなぼうし——。でもね、もつともつと たくさん羽がついて
るの。」

そう、クジヤクのぼうし。



ケーキやさんの前まえとおを通りました。ミリーは、そうぞうしました。すると、ぼうしは、ならんでいました。

ケーキのぼうしになりました。

花はなやさんとおを通りすぎたとき、ミリーのぼうしは、花はなでいっぱいの

ぼうしになりました。

公園こうえんでは、ふんすいのぼうしです。

そのときです。ミリーは、気がつきました。ぼうしをかぶっているのは、じぶんだけじゃないんだと。みんな、ぼうしをもつていたのです。

そのどれもが、それぞれちがつたぼうしでした。



むこうから、おばあさんがやつてきました。おばあさんのぼうしは、くらくてさびしい水たまりでした。ミリーがおばあさんにほほえみかけると、ミリーのぼうしの中から 鳥や魚がとび出して、おばあさんのぼうしにとびうつりました。

ミリーはうれしくなつて、うたをうたいました。すると、ぼうしも

いつしょにうたいました。



○鳥

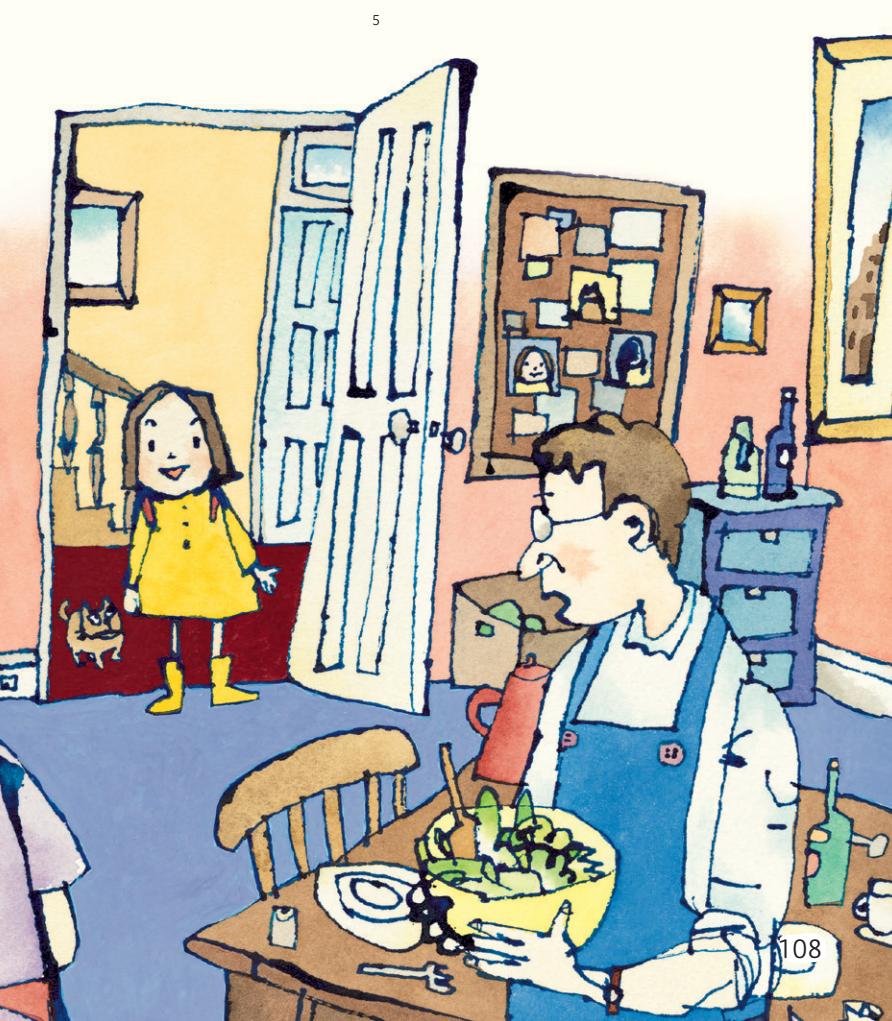
そうしてミリーは、いえにもどりました。でも、ぼうしが大きくなりすぎたぼうしを そうぞうしてみました。

ミリーは、いえに入ると言いました。

「ママ、わたしのあたらしいぼうし、見て。きれいですよ。」

「あたらしいぼうし。」

ママは、ちょっとびっくりしています。だって、ぼうしなんかどこにも――。でも、ママは、こう こたえることにしました。



「まあ、すてきね。ママも、
そんなぼうし、ほしいな。」

「ママだつてもつてるのよ、

ほんとうは。そうぞうす
ればいいの。」

と、ミリー。

そうです。だれだつて
もつているのです。じぶん
だけのすてきなぼうしを。

きたむらさとし
さんは、「ぼくネコ
になる」「わたし
のゆたんぽ」など
も書いています。



公 公公公公
園 園園園園園園園園

公園

万 万万万

通 通通通通通通通

通る

九 九萬

頭 頭頭頭頭頭頭頭頭
鳥 鳥鳥鳥鳥鳥鳥鳥鳥鳥

頭



雨のうた

つるみまさお

あめはひとりじゃうたえない、
きっとだれかといっしょだよ。
やねといつしょに
やねのうた
つちといつしょに
やねのうた
かわといつしょに
かわのうた
はなどいつしょに
はなうた。

あめはだれともなかよしで、
どんなうたでもしつてるよ。
やねでとんとんやねのうた
つちでぴちぴちつちのうた
かわでつんつんかわのうた
はなでしとしとはなのうた。

ことばでみちあんない



みどりさんが、はるかさんに、まちあわせのばしょを でんわでれんらくしています。

「公園の入り口を入って、まっすぐ行つたらばら園があるよ。しばらく行つたら右にまがって。そこにあるベンチでまつっているね。」

はるかさんは、みどりさんに会えるでしょうか。

1 みどりさんがあんないのしかたで、分かりにくいところはありますか。わけといっしょに話しましょう。

2 ちずの中から、まちあわせのばしょをきめて、友だちにみちあんないをしましよう。聞く人は、ちずを見ないで、メモをとりながら聞きましょう。

3 聞いた人は、メモとちずを見て、あんないされたとおりに行けるかを たしかめましょう。

- ふんすいの近くのベンチ
- まがるのは二回
- 一つ目のトイレを
- すぎたら右
- 十字ろを右



まちあわせのばしょは、ふんすいの近くのベンチです。

ぜんぶで二回まがります。まず、入り口からまつすぐにすすみます。ひとつ目のトイレをすぎたら、すぐ右にまがります。

みどりさんがあんないするばしょを言う。
・通るみちのじゅんに せつめいする。
・まがるところやほうこく、 目じるしになるものを、はつきりと言つう。
いえから学校までのみちじゅんなどを、
友だちと話してもいいですね。





「どうぶつ園のじゅうい」は、じゅういさんのしごとについて書かれた文しようです。いつ、どんなしごとをしているのでしょうか。

どうぶつ園のじゅうい

読む
読んで考えたことを話そう

これまでのがくしゅう
 せつめいする 文しようを読む
(たんぽぽのちえ) ...
50ページ



かん字のひろば
1年生でなったかん字
2

絵の中のことばをつかって、一しゅうかんのできごとを、日記を書くように書きましょう。
「れい」月曜日は、花だんの草とりをしました。
あつくて、とてもたいへんでした。

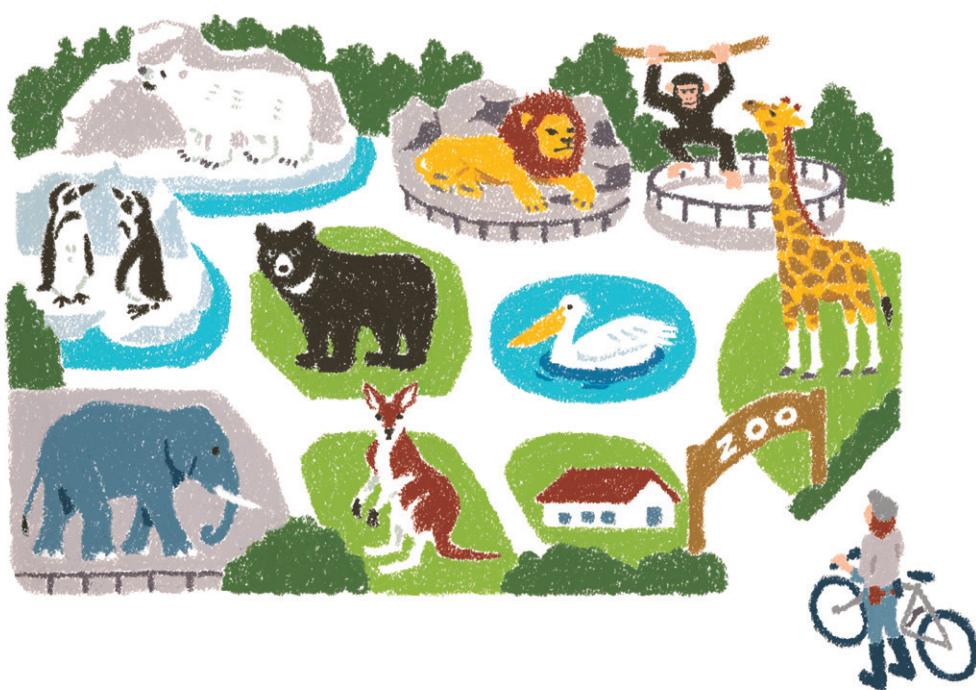
どうぶつ園のじゅうい

うえだみや文 そしきだいすけ 絵

わたしは、どうぶつ園ではたらいているじゅういです。わたしのじごとは、どうぶつたちが元気にくらせるようにすることです。どうぶつがびょうきやけがをしたときには、ちりょうをします。ある日のわたしのじごとのことを書いてみましょう。

朝、わたしのじごとは、どうぶつ園の中を見回ることからはじまります。なぜかというと、元気なときのどうぶつ

のようすを見ておくと、びょうきになつたとき、すぐに気づくことができるからです。また、ふだんからわたしの顔を見せて、なれてもらうという大切なりゆうもあります。どうぶつたちは、よく知らない人には、いたいところやつらいところをかくします。そこで、わたしの顔をおぼえてもらつて、あんしんして見せてくれるようにするのです。毎日、「おはよう」と言いながら家の中へ入り、こえもおぼえてもらうようにしています。



5

○家 いえ ○毎 まい 日 ●大 たいせつ ●顔 かお
○見 回 まわ る ○朝 あさ

見回り

がおわるころ、しいくいんさんによばれました。

いのししのおなかに 赤ちゃんがいるかどうか、みてほしいと

いのししおなかに 赤ちゃんがいるかどうか、みてほしいと
いのししおなかに 赤ちゃんがいるかどうか、みてほしいと

いうのです。おなかの中のよう

いのしし

すを さぐるためには、きかい

を おなかに当てなければなり

ません。いのししがこわがらな

いように、しいくいんさんが

えさをたべさせ、その間に、

そつと当ててみました。まちが

いありません。おなかの中に、

赤ちゃんがいました。



お昼前に、どうぶつ園の中にある びょういんにもどりました。
した。すると、けがをしたにほんざるが くすりをのまないと、
しいくいんさんがこまつていきました。にほんざるは、にがい
あじが大きらいです。えさの
中に くすりを入れて のませ
ようとしても、すぐに気づかれ
ました。くすりをこなにして、
半分に切ったバナナに はさん
でわたしました。すると、くす
りのところだけをよけて、たべ
てしまいました。こなをはちみ



○半
・分



○お昼

にほんざる

○間

○当てる



しいくいん
どうぶつのへやを
そうじしたり、え
さをやつたりする
ひと。
人。

つにませたら、やつと、いつしょにのみこんでくれました。

お昼すぎには、ワラビーの家に行きました。はぐきがはれているワラビーが見つかったので、きょう、ちりょうをすることになっていたのです。この

ワラビーは、はがぬけかわるときにばいきんが入つて、はぐきがはれてしましました。はぐきのちりょうは、とてもいたいので、あばれることがあります。三人のしいくいんさんにおさえてもらつて、ちりょうをしました。

10

5



ワラビー

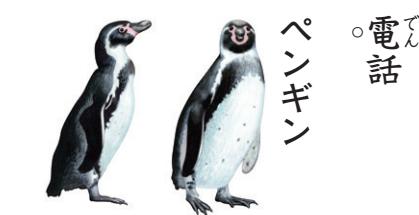


夕方、しいくいんさんから電話

話がかかつてきました。ペンギンが、ボールペンをのみこんでしまつたというのです。ペンギンは、水中で魚をつかまえて、丸ごとのむので、えさとまちがえたのでしょうか。いのちにかかるたいへんなことです。大いそぎでくす

りをのませて、はかせると、ボールペンが出てきました。早めに手当てができたので、ペンギンは、その後すぐに元気になりました。ひとあんしんです。

10



・後あと
・ペンギン

5

・三人にん



いちにち 一日のしごとのおわりには、

きょうあつたできごとや、どうぶつを見て 気がついたことを、日記に書きます。毎日、きろくをしておくと、つぎに同じようないょうきやけがが あつたとき、よりよいちりょうを することができます。

どうぶつ園を出る前には、かならずおふろに入ります。どうぶつのからだの体には、人間のびようきのもど

になるものが ついていることがあります。だから、どうぶつにさわった後は、それをどうぶつ園の外に もち出さないために、おふろで 体をあらわなければいけないです。これで、ようやく 長い一日がおわります。

○外そと



10

5



オグロワラビーNo.20♂		状態	処置
月	日		
6	15	木	エタの食へきか かからい 糸を覗く 休止
6	16	金	翌日から左歯へ腫瘍大 えり食へば。流33ml あり 糸を引く。入る 明日歯科手術
6	17	土	歯頭をじて口腔内 を覗き 左上歯腫瘍1 に付着の根えぐら 糸を取る 翌2日歯も腫瘍 大きいため2本抜歯 歯科医好

人間げん



見通しをもとう

読んで考えたことを 話そう

- ・じかんをあらわすことばに 気をつけて、読みましょう。
- ・考えたことや、気づいたことを話しましょう。

ひつしやは
文しようを書いた
ひとのこと。
ひつしやは
文しようを書いた
ひとのこと。

155ページ

●ひつしやは、いつ、どんなしごとをしましたか。じかんのじゅんじょが分かることばに 気をつけて、たしかめましょう。

●ひつしやが、そのしごとを したわけや、しごとをするときに くふうしたことを見つけましょう。

●ひつしやのしごとで、毎日することと、この日にだけ したことは なんですか。

ですか。

●しごとの中で、つきのようになんじたものは ありましたか。

●はじめて知つて おどろいたこと。
・もつと知りたいこと。

●みの回りのこととくらべて 考えたことを、ノートに書きましょう。

●ノートに書いたことを、グループで話しましょう。



ひろげよう

まとめよう

ふかめよう

とらえよう

ふりかえろう

知る
 読む
 つなぐ

じかんのじゅんじょに 気をつけて 読むとき、どんなことばを見つけましたか。
ひつしやのしごとを、じぶんの知つて いる どんなこととくらべましたか。
友だちが 読んで 考えたことを 聞いて、どう思いましたか。

ぶつに あいさつをしていることです。どうしてかと いうと、わたしは、学校のうさぎに あいさつをしたことが なかつたからです。じゅういさんは、どうぶつに顔とこえを おぼえてもらえるように、毎日、あいさつをして います。この前、学校のうさぎに 近づいたとき、うさぎは わたしからに げてしましました。あしたからは、じゅういさんのように、毎朝あいさつをして、うさぎとなかよくなりたいです。

ひつしやは
かんじたこ
とやかんじ
たわけ

朝あさ	いつ
おわるころ	どうぶつの名前
見回りがいのしし	どうぶつ園を
見回る。いのししのおなかにきかいをあわせてた。	ひつしやのしごと

5



読んで、考えをもつ

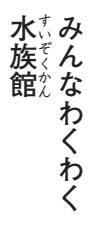
- だれがなにをしたかや、なにがあつたかを、じゅんじょに気をつけ 読んで読む。
- 読んで分かつことと、じぶんの知っていることをくらべる。

生きもののせわをするしごとを
している人について書かれた本です。

この本、読みもう



めざせ!
動物のお医者さん



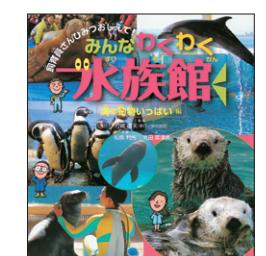
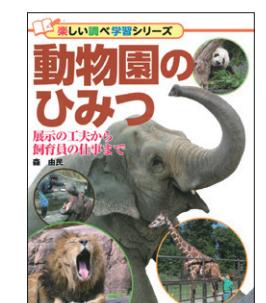
みんなわくわく
水族館



朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝
顔 顔 顔 顔 顔 顔 顔 顔 顔 顔 顔 顔 顔 顔
毎 每 每 每 每 每 每 每 每 每 每 每 每 每 每
家 家 家 家 家 家 家 家 家 家 家 家 家 家
半 半 半 半 半 半 半 半 半 半 半 半 半 半

当 当 当 当 当 当 当 当 当 当 当 当
間 間 間 間 間 間 間 間 間 間 間 間 間
昼 昼 昼 昼 昼 昼 昼 昼 昼 昼 昼 昼
お昼 お昼 お昼 お昼 お昼 お昼 お昼 お昼
半分 はんぶん

電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電
外 外 外 外 外 外 外 外 外 外 外 外
外 そと



ことば ことばあそびをしよう

「あいうえお」や「あかさたな」をつかって、文をつくりましょう。

あいうえお

ありが、
いけに
ういている。
えだにのつて
おでかけだ。



あかさたな

あしかは、
かんがえている。



たべたのは
なんだつたつけ、と。
おでかけだ。

さつき

たべたのは
なんだつたつけ、と。

声に出して、楽しみましょう。

■数えことば・数えうた

ことばあそびうた

ひい ふう みい よう

いつ むう なな やあ

こここのつとお

5



いちじくにんじん
さんしょにしいたけ
ごぼうにむかごに
ななくさはつたけ
きゅうりにとうがん



このこのこのこ
どこのこここのこ
このこのこのこのこ
たけのこきれぬ
そのこのそのそ
そのこのけそのこ
そのこのそのおの
きのこもきれぬ

10

5

○樂 たの 声 こえ
しみ



ふるくからつたわるものに

親しみましょう。

■いろはうた

いろはにはへと

ちりぬるを
わかよたれそ

つねならむ

うゐのおくやま

けふこえて

あさきゆめみし

ゑひもせす

5

10



○親 しむ

ちいきの、ゆうめいなところやもの、人などを
とり上げています。

四十七文字のひらがなが、一回ずつつかわれて
います。声に出して読んでみましょう。

声 声声声声声声声
樂 樂樂樂樂樂樂樂
親 親親親親親親親
声 声

ことば なかまのことばとかん字

なかまのことばとかん字を、いつしょにおぼえましょう。

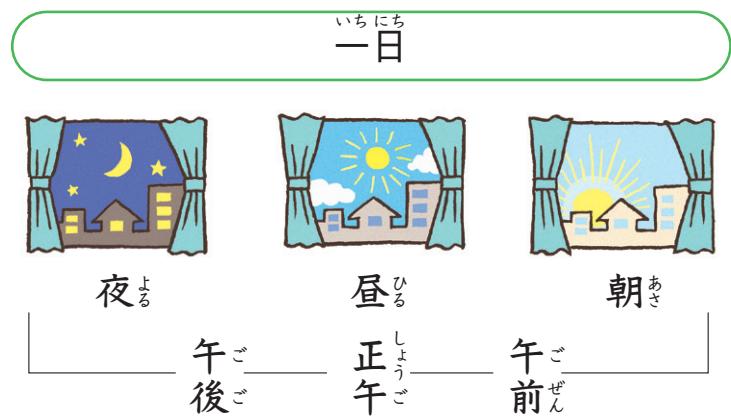
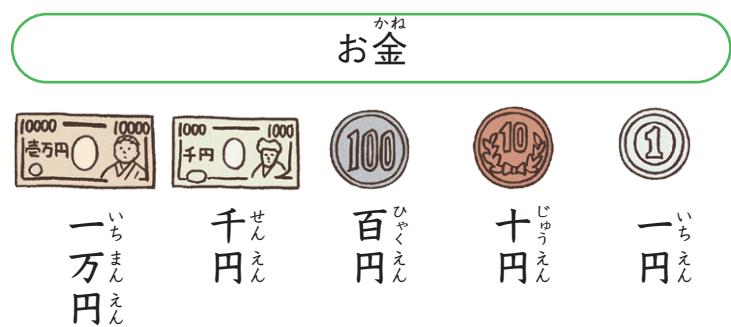
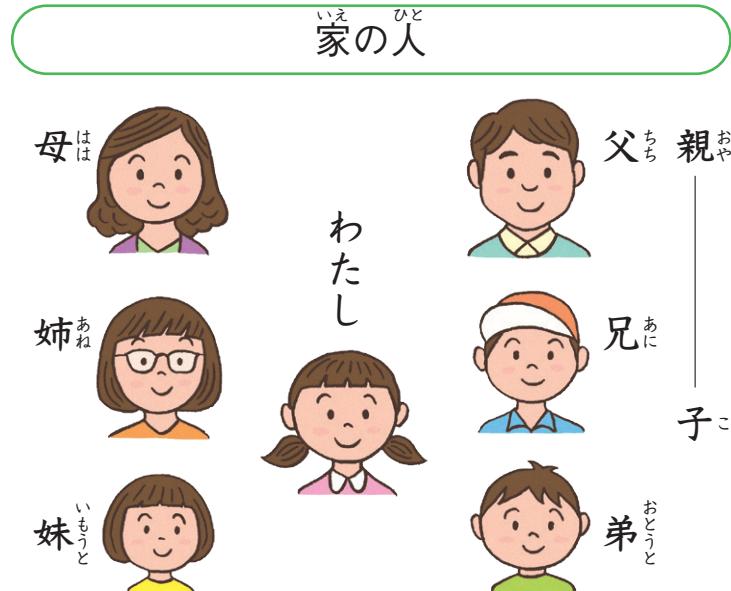
兄	父	母	兄	父	母	兄	父	父	父	母	兄	兄	兄	兄	兄	兄	兄	兄	兄	母	兄	
兄	兄	兄	兄	兄	兄	兄	父	父	父	父	母	母	母	母	母	母	母	母	母	母	母	
午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	午	
夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	夜	
午前																						
算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語
算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語
算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語
算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語
算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語
算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語	国	算	語

▼どうぶつの名前や、うごきをあらわすことばなど、なかまのことばをあつめましょう。かん字をつかって書けるものは、かん字で書きましょう。



・体育
・音楽
・算数
・国語

「ことばのたから
ばこ」
153ページ



○夜
○午後
○午前
○弟
○兄
○母
○父
○親

広げよう がくしゅうを

ふろく



「たいせつ」のまとめ
知りたいことの見つけ方、しらべ方
ひらがなどたたかな
ほんのせかいを広げよう
いなばの 白うさぎ なかがわりえこ
これまでに ならつた かん字
この 本で ならう かん字
ことばのたからばこ

153 150 148 144 141 138 134



かん字の
ひろば
1年生で
なったかん字
3

絵の中の 学校のようすを 書きましょう。
「は」や「を」を 正しくつかいましょう。
「れい」 こうもんの近くで、一年生が友だちを
まっています。

「たいせつ」のまとめ

- この本でがくしゅうする、大切なことをまとめています。
- たしかめたり、ほかのがくしゅうでつかつたりしましょう。
 - できるようになったことを、くうらんに書きましょう。

だいじなことをおとさずに、話したり聞いたりする



学んだことをいかそう
・先生や、友だちの話を聞くとき。

- だいじなことはなにかをかんがえて話す。
- 聞くときは、だいじなことをおとさないように、メモをとる。

しつもんをして、あいての考え方をひき出す



- あいての考え方をくわしく聞くために、だいじなことはなにかを考え、しつもんする。
- ていねいな言い方と、ふつうの言い方のどちらをつかうとよいか、考える。

できるようになったこと〈話す・聞く〉

5



日記に書くこと



まな
学んだことをいかそう

- ・生活の時間など、がくしゅうの中でのなかに何かを書くとき。
- ・ふだん、日記や手紙を書くとき。

できること

できること

できるようになったこと〈書く〉

5

- かんさつしたことを書く
- 見たり、さわったり、においをかいだりして、ていねいにかんさつする。
- かんさつしたことを、くわしく書く。
- 「はじめ」に、なにを知らせたいかを書く。
- 「中」に、知らせたいことを、くわしく書く。
- 「おわり」に、まとめのことばを書く。

組み立てを考えて書く



10

できること

できること

できるようになったこと〈書く〉

5



せつめいする文しようを 読むとき

せつめいする文しようを 読むときには、つぎ

のことに 気をつける。

● じゅんじょ

● わけ

読んで、考えをもつ

● だれがなにをしたかや、なにがあつたかを、じゅんじょに気をつけて 読む。

● 読んで分かったことと、じぶんの 知っていることを くらべる。

お話を読むとき

おはなしをたしかめる

● どうじょうじんぶつをたしかめる。

26ページ

126ページ

50ページ

学んだことをいかそう

・ 時間のじゅんじょにそつて

かわっていく もののことをたしかめるとき。

・ 文しようを読んで、新しく知ったことは 何かを 考えるとき。

できるようになつたこと
(せつめいする文しようを読む)



5

学んだことをいかそう

・ 読んだお話のないようを、だれかに知らせるとき。

・ お話を読んで、思ったことをつたえ合ふとき。

76ページ

96ページ

できるようになつたこと
(お話を読む)



5

本をしようかいする

ことばで書く。

● 書いたものを、お話のじゅんにつなげる。

本をしようかいする

本をしようかいするときは、つぎのようなこと

● 書いた人と、本のだいめい。

● どんなじょうじんぶつが 出てきたか。ど

んなお話か。

● すきなところや、おすすめしたいところ。

知りたいことの見つけ方、しらべ方

きめよう

1 知りたいことを見つけよう

- ① みの回りで、見たものや聞いたことを思い出す。

- ・帰り道で、バツタを見つけた。
- ・ひまわりがさいていた。
- ・ひこうき雲を見た。

- ② その中から、くわしく知りたいことをえらぶ。

バツタについて
知りたいな。



- ・大きさ
- ・色
- ・形
- ・うごき
- ・におい
- ・音
- ・さわったかんじ

など

〈れい〉

バツタは、どのようにうごくのか。
バツタは、どれぐらいとべるのか。

5

2 しらべることをきめよう

「メモをとる」ときに、
気づいたことを、
どうやってメモした
いいだろう。



よし。これでバツタの
とぶきよりも、とび方が
分かった。

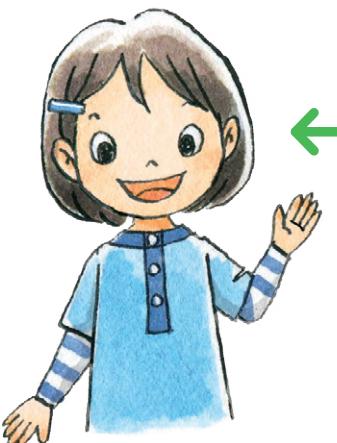
「メモをとるとき」

78ページ

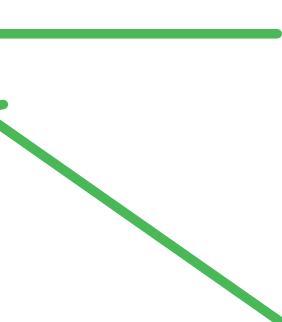
じゅんじょに気をつ
けて、まとめておこう。

「じゅんじょ」

51ページ



「せいりする」



28ページ

52ページ

「図書館たんけん」

52ページ

バツタの本は、
どこにあるんだろう。



3 しらべよう

本を読む

かんさつする

「かんさつ名人に なろう」

とぶときには、後ろあし
がうごいている。どのよ
うにうごいているのかな。



「あつめよう」

本を読む

かんさつする

「かんさつ名人に なろう」

とぶときには、後ろあし
がうごいている。どのよ
うにうごいているのかな。

ひらがなとかたかな

たてに読んだり、よこに読んだりしましょう。
書きまちがえやすい字がないか、たしかめましょう。

んわらやまはなたさかあ
(い)り(い)みひにちしきい
(う)るゆむふぬつすくう
(え)れ(え)めへねてせけえ
をろよもほのとそこお

10	5
ぴ や や ジ や り や や ひ や や き や ぴ ゆ び ゆ じ ゆ り ゆ み ゆ ひ ゆ ち ゆ し ゆ ぴ び じ よ り よ み よ ひ よ ち ょ し ょ よ	き ゅ ち ょ し ょ き ょ ち ょ し ょ き ょ

ンワラヤマハナタサカア
(イ)リ(イ)ミヒニチシキイ
(ウ)ルユムフヌツスクウ
(エ)レ(エ)メヘネテセケエ
ヲロヨモホノトソコオ

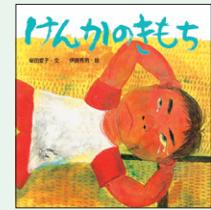
10	5
ピ ャ ジ ゃ ギ ゃ リ ゃ シ ゃ ニ ゃ ピ ュ ビ ュ ジ ュ ギ ュ リ ュ ミ ュ ニ ュ ピ ボ ビ ボ ジ ボ ギ ボ リ ボ ミ ボ ニ ボ ヨ	キ ゅ チ ゅ シ ゅ キ ョ チ ョ シ ョ キ ョ

広げよう ほんのせかいを



しつぱいに
かんぱい!

たちは、いちばんの友達
のこうたとけんかをして
しまいました。ないても、
気もちは晴れません。
でも、しつぱいはだれにで
あるのです。



けんかのきもち

しばたあいこ文
いとうひでお絵え



ガラスのうま

ガラスでできた馬の足を
おつてしまつたすぐり。足
をテープでくつつけると、足
馬はガラス山へ走りだして
しました。



テスの木

ジェス M ブロウヤー文
ピーター H レインルーズ 絵
なかがわちひろやく



ありの
フェルダ

ありのフェルダは、よう
きでいたずらが大きさ。ほ
ら、きょうもおもしろいこ
とはないだろかとさがし
ていますよ。



はじめての
キャンプ

おおきなきが
ほしい
はじめてのキャンプ
はやしあきこ作・絵

ぱばだざが
ぴびぢじぎ
ぶぶづづぐ
ペべでぜげ
ぼぼどぞご

15

すうじ
／のばす
音

パバダザガ
ピビヂジギ
ブブヅズグ
ペベデゼゲ
ボボドゾゴ

15

スープ
／のばす
音

カツブ
／つまる
音

15

10 5

ピ ャ ジ ゃ ギ ゃ リ ゃ シ ゃ ニ ゃ
ピ ュ ビ ュ ジ ュ ギ ュ リ ュ ミ ュ ニ ュ
ピ ボ ビ ボ ジ ボ ギ ボ リ ボ ミ ボ ニ ボ
ヨ

人形げき

紙人形などを作って、すきなお話をげきにしましょう。

かみにんぎょう
にんぎょう

お話クイズ

みんなで読んだことのあるお話で、まちがいさがしクイズを作りましょう。

「れい」「ミリーのすてきなぼうし」
「今から話すところには、まちがいがあります。見つけてください。
「花やさんを通りすぎたとき、ミリーのぼうしは、鳥でいっぱいのぼうしになりました。」

はなし
はなし

絵をくらべて読みも

同じお話でも、絵がちがうとお話のかんじ方がかわります。読みくらべて、そのちがいを楽しみましょう。

「れい」
「ないたあかおに」
「ひん・ほまだ ひろすけ
え・いけだ たつお
おなじおとこ

え
おなじ
はなし
はなし

詩・ことば

ことばのこばこ

わだまこと

ことばのこばこ
かみにんぎょう

なぞなぞのみせ

いらっしゃい、どの店に
なぞなぞがありますよ。
答えは絵をよく見ながら、
考えましょう。

なかざわくみこ
絵え

あいうえおのうた

読みおわった本には、□にしるしをつけましょう。

あいうえおのうた
あいとう

「あ」から「ん」まで、
五十音ではじまる楽しい詩
がいっぱいです。みなさん
も作ってみたくなりますよ。

リットルのがわかる

リットルのえほん

どうぶつは、自分のはな
や耳、しっぽをいろいろな
ことにつかいます。どうぶ
つのせかいをのぞいてみま
せんか。

リットルのえほん
かみにんぎょう

ちゅうしやき、プール、
ちきゅうの海水など、いろ
いろな水のりょう（かさ）
をくらべてみましょう。

かげ

たちばなあいこしどう

同じもののかげでも、時
間がたつと長さやむきがか
わります。ふしぎなかげで、
楽しくあそんでみましょう。

かげ
かげ

へいわってどんなこと?

はまだけいこ

白くてよくしている、ば
くだんなんかおとさない。
これだけがへいわというこ
とのでしようか。

へいわって
さとつとしお
はな

「せんそうをしない。ば
くだんなんかおとさない。
これだけがへいわというこ
とのでしようか。

こんなしつぽでなにするの?

さとうみかもやく

うちやまりゆうしゃしん・文
タナゴは貝の中に、ナマ
ズは水たまりにたまごをう
みます。魚たちは、あの手
てでたまごをまもります。

こんなしつぽでなにするの?
さとうみかもやく

スティーブ＝ジョンキンズ・ロビン＝ペイジ
さとうみかもやく

さかなのたまご

うちやまりゆうしゃしん・文
タナゴは貝の中に、ナマ
ズは水たまりにたまごをう
みます。魚たちは、あの手
てでたまごをまもります。

さかなのたまご
いきのこうをかけたたいせきせん

うちやまりゆうしゃしん・文
タナゴは貝の中に、ナマ
ズは水たまりにたまごをう
みます。魚たちは、あの手
てでたまごをまもります。

しぜん・ちしき

さかなのたまご

うちやまりゆうしゃしん・文
タナゴは貝の中に、ナマ
ズは水たまりにたまごをう
みます。魚たちは、あの手
てでたまごをまもります。

さかなのたまご
いきのこうをかけたたいせきせん

てのひらかいじゅう

まつはしとしみつしゃしん・文

ギャースツ。ガオーツ。
かいじゅうだ。あれれ、本
当は、にわで見つけたて
のひらかいじゅうです。

まつはしとしみつしゃしん・文
ギャースツ。ガオーツ。
かいじゅうだ。あれれ、本
当は、にわで見つけたて
のひらかいじゅうです。

やさいはいきている

やさいはいきている

にんじんのきれはしを、
水を入れたら、おいたら、
何か出てきました。ほかの
やさいではどうなるので
しょう。

やさいはいきている
そたてみるこひのうわく

にんじんのきれはしを、
水を入れたら、おいたら、
何か出てきました。ほかの
やさいではどうなるので
しょう。



「聞いて たのしもう」(38・39ページ)で
読んでもらったお話です。ほかに、どのような
楽しみ方があるでしょう。

もういちど、だれかに
読んでもらいたいな。



こんどは、だれかに
読んでもらいたいな。



いなばの 白うさぎ

なかがわりえこ 文

むかし、むかし、大むかし。

いざもの國に、八十人ものかみさまの
兄弟がいました。そして、自分こそ、國を
おさめるのにふさわしいと、たがいに力を

きそい合っていました。でも、すえつ子の
オオクニヌシだけは、あらうことこの
みませんでした。兄さんたちは、弟をいく
じなしとわらい、しごとを言いつけては、

こきつきました。

さて、ある日、兄さんたちは、きれいな

つめたい風に当たるとよいぞ。』
と教えました。

おひめさまをおよめにもらおうと、いなば
の国へむかいました。たびのにもつは、大き
きなふくろにつめて、オオクニヌシにかつ
がせました。

みがるな兄さんたちが、弟をのこしてど
んどん行くと、けたのみさきで、赤はだか
のうさぎがたおれていました。毛をすっか
りむしりとられて、ふるえています。

「これは、おもしろいうさぎだ。からかっ
てやろう。」
と、兄さんたちは足を止めて、
「そこのうさぎ、海に入つてしまお水をあび、

わたしは、おきのしまにすんでいました。

10

5

けたのみさきにわたつてみたかつたのです

が、およげません。よいほうほうはないか

と考えて、海うみにいるわにのせなかを思おも

つきました。そこで、わにに言いいました。

「われわれうさぎと、きみたちわにさんと、

どつちが多いか少すくないか、くらべてみな

いか」

すると、わには、

「そりやいい。しかし、どうやるのかね。」

とききました。

「かんたんだよ。」

と、わたしは答こたえました。

「わにさんをせんぶあつめて、けたのみさ

きまで一れつにつながつておくれ。せな

赤あかはだかになつていきました。

そこに、かみさまがおおぜい通りかかつて、しお水みずをあびて風かぜに当たるとよいと言いいました。でも、よくなるどころか、いたくなるばかりで、とてもがまんができません。

せん。

うさぎの話を聞くと、オオクニヌシは、

「おお、かわいそうに。すぐ、川の水みずでよくあらいなさい。それから、みずべに生えているがまのほをとつて、まきちらし、ねころがるとよい。元どおりになる

だらう。」

と教おしえました。

かの上うえを、わたしがぴょんぴょんとんで、
数かぞえよう。」

「なるほど、うさぎさんはかしこい。」

わにはなかまをよびあつめると、けた

の方ほうへ一れつにならばせました。

わたしは、わにの上うえを、一つ二つと数かぞえながら、ぴょんぴょんとんで行いきました。

そして、あと一步いっぽできしにおりるといふと

き、うれしくなつて、つい、

「きみたち、だまされたね。」

と言いつてしまつたのです。

そのとたん、おこつたわにが、大きな口くちを開けて、かみつきました。あつというま

に、毛けはすっかりむしりとられ、わたしは白しろうさぎにもどりました。

それからと、いうもの、「オオクニヌシこそ、八十人の兄弟きょうだいの中なかでいちばんすぐれた方かただ」と、世よにつたわるようになりました。

①わに
ここでは、さめのこと。

なかがわりえこさんは、「くじらぐも」のさくしゃです。「ぐりとぐら」なども書いています。

これまでに ならつた かん字

△は、これから
ならう
読み方。(ー)は、小学校では
ならわない
読み方。

早	八	年	日	二	名	土	天	出
(さう)	(や)	(ねん)	(ひ)	(に)	(めい)	(ど)	(あま)	(しゆ)
さはや めまる	やや はち	とね しん	じか ひに ち	ふた つ	みめ な う	とつ ど	あて ん	すし だで る
けんせ るる	じみ	ゆう みぎ	まち ょう	もん どん	ふみ んも の	ひや く	にじ んと	ひだ り

見	耳	右	町	本	文	百	人	左	林
(けん)	(じみ)	(ゆう)	(まち)	(ほん)	(ぶん)	(ひゃく)	(にん)	(さ)	(りん)
みえ るる	み るる	み るる	ま るる	も るる	ぶ るる	ひ るる	ん	ひ だり	は やし

六	夕	山	休	森	木	目	村	虫
(む)	(せき)	(やま)	(きゆう)	(やま)	(きゆう)	(ま)	(むら)	(ちゅう)
む るる	せ きく	や まく	や すめる	や まく	や すめる	ま く	む らく	ち ゅう

石	雨	足	赤	青	糸
(こく)	(あま)	(あし)	(しゃく)	(あお)	(じ)
しあ く	あ め	そく たり	あ から める	あ おお う	か くす う
王	円	上	入	犬	糸
(おう)	(えん)	(じょう)	(い)	(けい)	(い)
お う	え ん	じ ょう	い う	け い	い いと
け き	川	学	貝	火	男
(けき)	(せかわ)	(まなぶ)	(かい)	(ほひか)	(め)
け き	せ かわ	ま なぶ	か い	ほ ひか	め いよ
先	校	五	子	月	草
(せん)	(こう)	(ご)	(こ)	(げ)	(く)
せ ん	こ う	い いご	す しこ	つ がげ	く くうち
せ ん	こ う	ご	こ	げ	く
九	金	九	女	男	音
(く)	(きん)	(く)	(め)	(め)	(おん)
こ こ	か きゅう	こ こ	お んな	お とこ	お ん
こ こ	か きゅう	こ こ	お んな	お とこ	お ん
十	車	七	下	字	四
(じゅう)	(じゅう)	(しち)	(さ)	(じ)	(よ)
じ ゅう	じ ゅう	な な	く く	あ じ	よ よ
じ ゅう	じ ゅう	な な	く く	じ	み
手	力	小	生	水	白
(て)	(りき)	(こ)	(お)	(み)	(し)
た し	り き	こ こ	お こ	み い	し ら
た し	り き	こ こ	お こ	み い	し ら
大	田	中	正	中	中
(だい)	(た)	(ちゆう)	(せい)	(ちゆう)	(ちゆう)
だ い	た	ち ゆう	せ い	ち ゆう	ち ゆう

この本でならう かん字

読み方は、この本でならうもの。

59 今 4画	56 同 6画	56 近 7画	131 体 7画	131 数 13画	95 長 8画	53 形 7画	47 多 6画
いま	おなじ	ちかい	たい	からだ	かずえる	ながい	かたち
今から行く	かん字	ぶぶんを	もつ	同じ	いえが	近い	人が多い

59 汽 7画	59 線 15画	59 妹 8画	59 姐 8画	95 59 店 8画	59 内 4画	117 59 切 4画	59 刀 2画	59 社 7画	80 59 会 6画
き	せん	いもうと	あね	てんみせ	ない	せつ	きる	かたな	あう
汽車	線をひく	妹と姉	姉と妹	店長	町内	大切にかみを切れる	糸が切れると	小刀で切る	会社で会う

68 元 4画	130 64 前 9画	64 広 5画	63 魚 11画	スイミー	61 歩 8画	116 61 回 6画	59 海 9画
げん	ぜんまえ	ひろい ひろまる ひろめる ひろがる ひろげる	さかな		あるく	まわる まわす	うみ
元気	午前名前	広まる 広めら 広がる 広げる	魚		みちを歩く	こまを回す	海が見える

130 121 81 後 9画	80 組 11画	79 室 9画	78 考 6画	78 知 8画	73 光 6画	79 72 教 11画	69 岩 8画
ご	あとうしろ	こんなもの、見つけたよ	しつ	るかんがえ	ひかる	きょうおしえる	いわ
午後	その後	二組み立て 一年一組	教室	よく考へる	ほしが光る	みちを教える	岩かげ

19 南 9画	85 17 行 6画	16 言 7画	15 雪 11画	13 読 14画	ふきのとう	13 読 14画
みなみ	ぎょう	いう	ゆき	よむ	かくすう	よむ

30 春 9画	53 28 方 4画	119 分 4画	28 図 7画	24 絵 12画	書 10画
はる	かた	ぶん	わか	え	かく

34 聞 14画	85 34 話 13画	33 肉 6画	32 曜 18画	32 記 10画	32 思 9画
きこえる	わ	はなし	よう	き	おもう

46 晴 12画	46 風 9画	46 高 10画	44 太 4画	43 黒 11画	42 色 6画	42 黄 11画
はらす	かぜ	たかい	ふと	くろ	いろ	き

90 夏 10画	なつ なつ 夏休み	88 雲 12画	くも くも 雲の上	87 羽 6画	はね はね とんぼの羽	86 友 4画	とも とも 友だち	あつたらいいな、 こんなもの	85 買 12画	かう かう 本を買つ	85 点 9画	てん てん 点と丸	まる まる まるめる	85 丸 3画	まる 丸い 丸と かみを丸める
----------------	-----------------	----------------	-----------------	---------------	-------------------	---------------	-----------------	-------------------	----------------	------------------	---------------	-----------------	------------------	---------------	--------------------------

117 毎 6画	まい 毎日	117 顔 18画	かお 顔を見せる	116 朝 12画	あさ 毎朝	どうぶつ園のじゅうい えん	とり 鳥がとぶ	106 鳥 11画	とり 鳥にのせる	101 頭 16画	あたま 頭にのせる	98 万 3画	まん 一万円	97 通 10画	とおる 車を通す	95 園 13画	えん 公園	95 公 4画	こう 公園	お気に入りの本を しようかいしょ ミリーのすてきなばうし ほん
----------------	----------	-----------------	-------------	-----------------	----------	------------------	------------	-----------------	-------------	-----------------	--------------	---------------	-----------	----------------	-------------	----------------	----------	---------------	----------	--

130 親 16画	おや おや 親子	129 楽 13画	がく がく 音楽	131 声 7画	こえ こえ 声を出す	ことばあそびをしよう こと	そと 外に出る	123 外 5画	そと 外に出る	121 電 13画	でん 電話	119 半 5画	はん 半分	119 昼 9画	ひる お昼	122 間 12画	あいだ 人間	118 当 6画	あたる その間	117 家 10画	いえ 家の中
-----------------	----------------	-----------------	----------------	----------------	------------------	------------------	------------	----------------	------------	-----------------	----------	----------------	----------	----------------	----------	-----------------	-----------	----------------	------------	-----------------	-----------

131 算 14画	さん 算数	131 語 14画	ご 国語	131 国 8画	こく 国語	130 夜 8画	よる 夜と夜	130 午 4画	ご 午前	130 弟 7画	おとうと 弟と兄	130 兄 5画	あに 兄と弟	130 母 5画	はは 母と父	130 父 4画	ちち 父と母	なかまのことばとかんじ じ
-----------------	----------	-----------------	---------	----------------	----------	----------------	-----------	----------------	---------	----------------	-------------	----------------	-----------	----------------	-----------	----------------	-----------	------------------



ことばのたからばこ

かんが
考え方や気もちをつたえることば

できごとや見つけたこと、かんじたことを
ときに、つかいましょう。

じんぶつを
あらわすことば

ものようすを
あらわすことば

考え方を
あらわすことば

明るい
ゆうきのある
前むき
元気

きれい
めずらしい
くわしい

みたい
のよう

そそつかしい
だりよく家か
ちえのある
気が弱い

細かい
人気のある

おなじ
と同じ

たくましい
いじわる

目立つ
きゅうくつ
すばやい

おなじ
とちがう

のろのろ
ひつそり

ににた
——

——

かわいい
おもしろい
楽しい
わくわくする
うれしい
よろこぶ
ほつとする
気もちがいい
さっぱりする
さびしい

めだた
のろのろ
のろのろ
ひつそり

——
——

かわいい
おもしろい
楽しい
わくわくする
うれしい
よろこぶ
ほつとする
気もちがいい
さっぱりする
さびしい

き
氣もちをあらわすことば

なかまのことばをあつめよう
ここにない「じんぶつをあらわすことば」や「き
氣もちをあらわすことば」を
見つけてみましょう。

「スイミー」には、「すばらしい」という
ことばがあつたよ。

みんなであつめて、「クラスのことばのたからばこ」を作ることも
いいですね。



「」にあることばを
きっかけにして、
ことばをふやそう。

がくしゅうに用いることば

国語のがくしゅうで、よくつかわれることばです。いやつかい方をたしかめて、がくしゅうにいかしましょう。

とうじょうじんぶつ (じんぶつ)

お話の中に出てくる人のことです。お話の中で、人のよううにうござりたり、考えたりする生きものやものも、とうじょうじんぶつ (じんぶつ)といいます。

とうじょうじんぶつが言つたことや、したことを思つてかべながら読むと、お話のないようがよく分かります。

メモ

聞いたことや考えたことなどを、せいりしたりまとめたりするために書きとめることです。また、書きとめたものも、メモといいます。

だいじなことをみじかいことばでメモしておくと、後でつたえたいことを正しくつたえることができます。

あらすじ

どうじょうじんぶつがしたことやできごとを中心にお話をみじかくまとめたものです。じんぶつがしたことをお話のじゅんにみじかくまとめてつなげると、あらすじになります。お話を人にしようかいするときには、あらすじをつたえり、そのお話をぜんぶ読まなくても、だいたいどのようないようかが分かれります。

74ページ

36ページ

24ページ

5ページ

しつもん

分からないことや知りたいこと、たしかめたいことなどを、人にきくことです。しつもんをするときは、あいての話をよく聞いて、かんけいのあることをたずねるようになります。話し合うときには、おたがいにしつもんをし合うことで、ほかの人の考えがよく分かるようになつたり、みんなの考えがせいりされたりします。

87ページ

ひつしや

文しようを書いた人のことです。お話や詩などを作った人である「さくしや」とくべつして、せつめいする文しようを書いた人をひつしやということがあります。

〈れい〉
「たんぽぽのちえ」のひつしやは、うえむらとしおさんです。

ひつしやはどんな人かをたしかめたり、ひつしやが考えたことに気をつけて読んだりすると、その文しようが何についてせつめいしているのかがよく分かります。

124ページ

これまでに学んだことば

さくしや

お話や詩などを作った人を、「さくしや」といいます。

だいめい

本や文しようにつけられた名前を、「だいめい」といいます。本のだいめいは、ひょうしに書いてあります。

やくしや

外国语の文しようを、日本語の文しように直すことを、まいごとにせりりして、組み立てを考えると、聞く人や読む人につたわりやすくなります。

82ページ

15

10

5

10

15

10

15

10